

伊豆市地域防災計画

津波対策編



令和5年4月

伊豆市防災会議

目次

総 則	頁
第1章 総則	1
第1節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱	1
1 伊豆市	1
2 静岡県	1
3 静岡県警察（大仁警察署）	2
4 駿東伊豆消防本部	2
5 防災関係機関	2
6 自衛隊	7
第2節 予想される災害	7
1 第4次地震被害想定	7
2 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震）の被害想定の結果	8
3 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（南海トラフ巨大地震）の被害想定の結果	9
4 相模トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（大正型関東地震）の被害想定の結果	14
5 相模トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（元禄型関東地震）の被害想定の結果	16
6 遠地津波	17

発 災 前	頁
第2章 平常時対策	19
第1節 防災思想の普及	19
第2節 自主防災活動	19
第3節 防災訓練の実施	19
1 伊豆市	19
第4節 津波災害予防対策の推進	19
1 避難誘導體制の確保	20
2 津波に強いまちづくり	21
3 津波避難施設等の整備	22

発 災 後	頁
第3章 災害応急対策	24
第1節 防災関係機関の活動	24
1 伊豆市	24
2 本部員会議	24
3 防災関係機関	25
第2節 情報活動	28
1 津波情報等の種類	29
2 津波情報等の伝達系統図	33
第3節 広報活動	34
第4節 災害の拡大防止活動	34
1 水防活動	34
2 人命の救出活動	35
第5節 避難活動	35
1 避難対策	35
2 避難所の設置及び避難生活	38
第6節 広域応援活動	40
1 伊豆市の行う活動	40
2 自衛隊の支援	40
3 海上保安庁の支援	41
第7節 地域への救援活動	41
1 伊豆市の行う防疫活動	41
2 住民及び自主防災組織の行う防疫活動	42
3 関係団体の行う防疫活動	42

目 次

発 災 後	頁
第8節 市有施設及び設備等の対策	42
1 公共施設等	42

《津波対策編》
第1章

第1章 総則

この計画は、「災害対策基本法（昭和36年法律第223号）」第42条の規定に基づき作成する「伊豆市地域防災計画」の「津波対策編」として定めるものであり、「大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）」第6条の規定に基づく「地震防災強化計画」及び「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成14年法律第92号）」第5条の規定に基づく「南海トラフ地震防災対策推進計画」及び「首都直下地震対策特別措置法（平成25年法律第83号）」第22条の規定に基づく「首都直下地震地方緊急対策実施計画」を含むものである。

「津波対策編」は、以下の各章から構成する。なお、「地震防災施設緊急整備計画」及び「地震防災応急対策」については、「地震対策編」によるものとする。また、復旧・復興については、「共通対策編」第4章復旧・復興対策によるものとする。

第1章 総則	防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱、予想される災害
第2章 平常時対策	防災思想の普及、自主防災活動、防災訓練の実施、津波災害予防対策の推進、
第3章 災害応急対策	防災関係機関の活動、情報活動、広報活動、災害の拡大防止活動、避難活動、広域応援活動、地域への救援活動、市有施設及び設備等の対策

第1節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

伊豆市、県及び市の地域を管轄する指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関及び地震防災応急計画又は南海トラフ地震防災対策計画（以下「対策計画」という。）を作成すべき者は、それぞれ南海トラフ地震等の防災対策を行うものとし、それぞれが実施すべき事務又は業務の大綱は次のとおりである。

1 伊豆市

- (1) 津波防災に関する組織の整備
- (2) 自主防災組織の育成指導、その他住民の津波対策の促進
- (3) 防災思想の普及
- (4) 防災訓練の実施
- (5) 津波防災のための施設等の緊急整備
- (6) 大津波警報、津波警報、津波注意報、その他津波に関する情報の収集、伝達及び広報
- (7) 避難指示に関する事項
- (8) 消防、水防、その他の応急措置
- (9) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項
- (10) 災害時における市有施設及び設備の整備又は点検
- (11) 緊急輸送の確保
- (12) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施
- (13) 津波防災地域づくりに関する法律（以下「津波防災地域づくり法」という。）に基づく警戒区域指定に伴う避難対策の強化
- (14) その他津波災害発生の防止又は拡大防止のための措置

2 静岡県

- (1) 津波防災に関する組織の整備
- (2) 自主防災組織の育成指導、その他県民の津波対策の促進
- (3) 防災思想の普及
- (4) 防災訓練の実施
- (5) 津波防災のための施設等の緊急整備

《津波対策編》
第1章

- (6) 大津波警報、津波警報、津波注意報、その他津波に関する情報の収集、伝達及び広報
- (7) 避難指示に関する事項
- (8) 水防その他の応急措置
- (9) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項
- (10) 災害時における県有施設及び設備の整備又は点検
- (11) 犯罪の予防、交通の規制、その他社会秩序の維持
- (12) 緊急輸送の確保
- (13) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施
- (14) 市町、指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関の地震防災応急対策及び災害応急対策の連絡調整
- (15) その他津波災害の発生の防止又は拡大防止のための措置

3 静岡県警察（大仁警察署）

- (1) 津波、噴火警報等の受理及び伝達並びに広報
- (2) 住民の避難指導、誘導及び救助
- (3) 危険区域への立入規制及び警備
- (4) 犯罪の予防、交通の規制等、その他社会秩序の維持
- (5) 避難状況等に関する情報の収集

4 駿東伊豆消防本部

- (1) 消防、その他の応急処置
- (2) 被災者の救護、救助その他の保護
- (3) 災害発生の防ぎよ又は拡大防止のための措置
- (4) 地震防災応急計画の作成指導

5 防災関係機関

(1) 指定地方行政機関

ア 警察庁関東管区警察局

- (ア) 管区内各警察の災害警備活動及び相互援助の指導・調整に関すること
- (イ) 他管区警察局及び警察庁との連携に関すること
- (ウ) 管区内防災関係機関との連携に関すること
- (エ) 管区内各県警察及び防災関係機関等からの情報収集及び報告連絡に関すること
- (オ) 警察通信の確保及び統制に関すること
- (カ) 津波、噴火警報等の伝達に関すること

イ 総務省東海総合通信局

- (ア) 災害時に備えての電気通信施設（有線電気通信施設及び無線通信施設）の整備のための調整及び電波の監理
- (イ) 災害時における電気通信及び放送の確保のための応急対策及び非常の場合の無線通信の監理
- (ウ) 災害地域における電気通信施設、放送設備等の被害状況調査
- (エ) 通信インフラに支障が発生した被災地の地方公共団体への衛星携帯電話等の災害対策用移動通信機器、災害対策用移動電源車及び臨時災害放送局用設備の貸与
- (オ) 非常通信訓練の計画及びその実施についての指導に関すること
- (カ) 非常通信協議会の運営に関すること

ウ 財務省東海財務局

- (ア) 災害時における財政金融の適切な措置並びに関係機関との連絡調整
- (イ) 災害時の応急措置のための国有財産の無償提供に関すること

エ 厚生労働省東海北陸厚生局

- (ア) 災害状況の情報収集、連絡調整

《津波対策編》
第1章

- (イ) 関係職員の派遣
- (ウ) 関係機関との連絡調整
- オ 厚生労働省静岡労働局（三島労働基準監督署）
 - (ア) 事業場に対する津波防災対策の周知指導
 - (イ) 事業場の被災状況の把握
- カ 農林水産省関東農政局
 - (ア) 農業関係、卸売市場及び食品産業事業者等の被害状況の把握に関する事
 - (イ) 応急用食料・物資の支援に関する事
 - (ウ) 食品の需給・価格動向の調査に関する事
 - (エ) 飲食料品、油脂、農畜産物等の安定供給対策に関する事
 - (オ) 飼料、種子等の安定供給対策に関する事
 - (カ) 病害虫防除及び家畜衛生対策に関する事
 - (キ) 営農技術指導及び家畜の移動に関する事
 - (ク) 被害農業者及び消費者の相談窓口に関する事
 - (ケ) ダム・ため池、頭首工、地すべり防止施設等、防災上重要な施設の点検・整備事業の実施又は指導に関する事
 - (コ) 農地・農業用施設及び公共土木施設の災害復旧に関する事
 - (サ) 被害農業者に対する金融対策に関する事
- キ 農林水産省関東農政局静岡県拠点
食料需給に関する情報収集及び災害時における関係機関、団体の被災状況の把握
- ク 林野庁関東森林管理局（伊豆森林管理署）
災害復旧用材（国有林材）の供給
- ケ 経済産業省関東経済産業局
 - (ア) 生活必需品、復旧資材等防止関係物資の円滑な供給の確保に関する事
 - (イ) 商工鉦業の事業者の業務の正常な運営の確保に関する事
 - (ウ) 被災中小企業の振興に関する事
 - (エ) 電気の安定供給に関する事（熱海市、沼津市、三島市、富士宮市（昭和31年9月29日における旧庵原郡内房村の区域を除く。）、伊東市、富士市（平成20年10月31日における旧庵原郡富士川町の区域を除く。）、御殿場市、裾野市、下田市、伊豆市、の市、田方郡、賀茂郡及び駿東郡）
 - (オ) ガスの安定供給に関する事（磐田市、湖西市、浜松市（平成17年6月30日における旧周智郡春野町の区域を除く。）及び袋井市（平成17年3月31日における旧磐田郡浅羽町の区域に限る）を除く。）
- コ 経済産業省関東東北産業保安監督部
 - (ア) 火薬類、高圧ガス、液化石油ガスなどの安全確保に関する事
 - (イ) 鉦山に関する災害防止及び災害時の応急対策に関する事
 - (ウ) 電気の安全確保に関する事（熱海市、沼津市、三島市、富士宮市（昭和31年9月29日における旧庵原郡内房村の区域を除く。）、伊東市、富士市（平成20年10月31日における旧庵原郡富士川町の区域を除く。）、御殿場市、裾野市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、田方郡、賀茂郡及び駿東郡）
 - (エ) ガスの安全確保に関する事（磐田市、湖西市、浜松市（平成17年6月30日における旧周智郡春野町の区域を除く。）及び袋井市（平成17年3月31日における旧磐田郡浅羽町の区域に限る。）を除く。）
- サ 国土交通省中部地方整備局
管轄する河川、道路、港湾についての計画、工事及び管理を行うほか、次の事項を行うよう努める。
 - (ア) 災害予防
 - ① 所管施設の耐震性の確保
 - ② 応急復旧用資機材の備蓄の推進及び防災拠点施設等の充実
 - ③ 機動力を生かした実践的な方法による防災訓練の実施

《津波対策編》
第1章

- ④ 公共施設等の被災状況調査を行う防災エキスパート制度の運用
- ⑤ 港湾における緊急物資輸送ルート確保に関する計画、指導及び事業実施

(イ) 初動対応

地方整備局災害対策本部等からの指示により、情報連絡員（リエゾン）及び緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等を派遣し、被災地方公共団体等が行う、被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する支援を行うとともに、緊急車両の通行を確保するため、関係機関と調整を図りつつ、道路啓開を実施する。

(ウ) 応急・復旧

- ① 防災関係機関との連携による応急対策の実施
- ② 路上障害物の除去等による緊急輸送路の確保
- ③ 所管施設の緊急点検の実施
- ④ 海上の流出油災害に対する防除等の措置
- ⑤ 県及び市からの要請に基づく災害対策用建設機械等の貸付
- ⑥ 航路啓開に関する計画に基づく、津波流出物の除去等による海上緊急輸送路の確保

シ 国土交通省中部運輸局

(ア) 所掌事務に係る災害情報の収集及び伝達

- (イ) 海上における物資及び旅客の輸送を確保するための、船舶の調達のあつせん、特定航路への就航勧奨
- (ウ) 港湾荷役が円滑に行われるよう必要な指導
- (エ) 緊急海上輸送の要請に速やかに対応できるよう、船舶運航事業者等との連絡体制の強化、船舶動静の把握及び緊急時の港湾荷役態勢の確保
- (オ) 特に必要と認めるときは、船舶運航事業者若しくは港湾運送事業者に対する航海命令又は公益命令を発する措置
- (カ) 鉄道及びバスの安全運行の確保に必要な指導・監督
- (キ) 自動車道の通行の確保に必要な指導・監督
- (ク) 陸上における物資及び旅客輸送を確保するための、自動車の調達あつせん、輸送の分担、う回輸送、代替輸送等の指導
- (ケ) 緊急陸上輸送の要請に速やかに対応できるよう、関係運送事業者団体及び運送事業者との連絡体制の確立、緊急輸送に使用しうる車両等の把握及び緊急時の出動体制の整備
- (コ) 特に必要があると認めるときは、自動車運送事業者に対する輸送命令
- (サ) 大規模自然災害における被災状況の迅速な把握、被災地の早期復旧等に関する支援のため緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣する。

ス 国土地理院中部地方測量部

- (ア) 災害応急対策の際、災害に関する情報の収集及び伝達における地理空間情報の活用を図る。
- (イ) 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の利活用を図る。
- (ウ) 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、地理情報システムの活用を図る。
- (エ) 災害復旧・復興にあたっては、位置に関わる情報の基盤を形成するため、必要に応じて復旧測量等を実施する。

セ 気象庁関東管区气象台（静岡地方气象台）

- (ア) 大津波警報、津波警報及び津波注意報の通知、津波情報等の発表又は通報並びに解説
- (イ) 津波観測施設の整備並びに観測機器の保守
- (ウ) 津波に関する啓発活動並びに防災訓練に対する協力
- (エ) 異常現象に関する情報が市長から通報された場合、すみやかに気象庁本庁に報告し適切な措置を講ずること

ソ 海上保安庁第三管区海上保安本部

- (ア) 船舶等に対する津波に関連する情報の情報伝達、船舶のふくそうが予想される海域において、必要に応じた船舶交通の整理・指導
- (イ) マリンレジャー等を行っている者に対する津波に関連する情報の伝達

《津波対策編》
第1章

- (ウ) 海上における人命救護、海難船舶等の救助
- (エ) 海上における治安の維持、海上交通の安全確保
- (オ) 危険物及び油の排出等海上災害に対する応急措置
- タ 環境省関東地方環境事務所
 - (ア) 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供
 - (イ) 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
 - (ウ) 行政機関等との連絡調整、被災状況・動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等
- チ 環境省中部地方環境事務所
 - (ア) 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
- ツ 防衛省南関東防衛局
 - (ア) 所管財産使用に関する連絡調整
 - (イ) 災害時における防衛省本省及び自衛隊等との連絡調整
 - (ウ) 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援
- (2) 指定公共機関
 - ア 日本郵便株式会社東海支社（市内各郵便局）
 - (ア) 郵便事業の運営に関すること
 - (イ) 災害の発生時又はそのおそれがある場合においては、可能な限り窓口業務を確保すること
 - (ウ) 施設等の被災防止に関すること
 - (エ) 利用者の避難誘導に関すること
 - イ 日本銀行
 - (ア) 通貨の円滑な供給の確保
 - (イ) 現金供給のための輸送、通信手段の確保
 - (ウ) 金融機関の業務運営の確保に係る措置
 - (エ) 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請
 - (オ) 各種措置に関する広報
 - ウ 日本赤十字社静岡県支部
 - (ア) 医療、助産、こころのケア及び遺体措置に関すること
 - (イ) 血液製剤の確保及び供給のための措置
 - (ウ) 被災者に対する救援物資の配布
 - (エ) 義援金の募集
 - (オ) 災害救助の協力奉仕者の連絡調整
 - (カ) その他必要な事項
 - エ 日本放送協会
 - (ア) 津波災害に関する解説、キャンペーン番組等の積極的な編成による視聴者の津波防災に関する認識の向上
 - (イ) 臨時ニュースの編成メディアを有効に活用し、津波に関する情報の正確迅速な提供に努めること
 - (ウ) 地方公共団体等の要請に基づき、予報、警報、警告等の放送を行うこと
 - (エ) 放送施設、設備の災害予防のため、防災施設、設備の整備をすすめること
 - オ 西日本電信電話株式会社（沼津支店）、株式会社NTTドコモ東海支社（静岡支店）
 - (ア) 災害時における重要通信の確保
 - (イ) 災害時における通信疎通状況等の広報
 - (ウ) 復旧用資機材等の確保並びに広域応援計画に基づく手配
 - カ 岩谷産業株式会社、アストモスエネルギー株式会社、株式会社ジャパングスエナジー、E N E O S グローブ株式会社、ジクシス株式会社
 - (ア) LPガスタンクローリー等によるLPガス輸入基地、2次基地から充填所へのLPガスの配送
 - キ 日本通運株式会社（沼津支店）、福山通運株式会社（三島営業所）、佐川急便株式会社（三島営業所）、ヤマト運輸株式会社（静岡主管支店）、西濃運輸株式会社（沼津支店）
 - (ア) 防災関係機関の要請に基づく緊急輸送車両の確保

《津波対策編》
第1章

- ク 東京電力パワーグリッド株式会社（伊豆支社）
 - (ア) 災害時における電力の緊急融通等による電力供給の確保
 - (イ) 復旧用資材等の整備
 - (ウ) 電力施設の災害予防措置及び広報の実施
 - ケ 電源開発株式会社、電源開発送変電ネットワーク株式会社
 - (ア) 災害時における電力施設の巡視、点検等災害予防措置
 - (イ) 災害予防広報
 - コ KDD I 株式会社（沼津支店）、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社
重要な通信を確保するために必要な措置の実施
 - サ 一般社団法人日本建設業連合会中部支部、一般社団法人全国中小建設業協会
公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
 - シ 株式会社イトーヨーカ堂、イオン株式会社、ユニー株式会社、株式会社セブン－イレブン・
ジャパン、株式会社ローソン、株式会社ファミリーマート、株式会社セブン&アイ・ホールデ
ィングス
被災地の復旧・復興を支援するため事業活動を早期に再開する
- (3) 指定地方公共機関
- ア 一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県看護協会、
公益社団法人静岡県病院協会、公益社団法人静岡県薬剤師会
 - (ア) 医療救護施設における医療救護活動の実施
 - (イ) 検案（公益社団法人静岡県薬剤師会、公益社団法人静岡県看護協会及び公益社団法人静岡
県病院協会を除く。）
 - (ウ) 災害時の口腔ケアの実施（一般社団法人静岡県歯科医師会）
 - イ 一般社団法人静岡県LPガス協会（東部支部）（伊豆市LPガス事業協同組合）
 - (ア) 需要家に対するLPガスによる災害の予防広報
 - (イ) 協会加入事業所による施設設備の耐震化等の予防対策の実施
 - (ウ) 災害時における防災広報並びに協会加入事業所の施設の点検等災害防止措置の実施
 - (エ) 燃料の確保に関する協力
 - (オ) 協会加入事業所による被害状況調査及び応急復旧
 - ウ 静岡県道路公社
 - (ア) 避難路、緊急輸送路の道路施設及び占有物の点検
 - (イ) 緊急輸送路を確保するために緊急に対策を必要とする箇所の整備
 - (ウ) 緊急輸送路の利用を円滑に行うための交通規制広報、障害物の除去及び応急復旧
 - エ 伊豆箱根鉄道株式会社
 - (ア) 津波警報等津波に関する情報の伝達
 - (イ) 列車の運転規制措置
 - (ウ) 列車の運行状況、乗客の避難状況等の広報
 - オ 静岡放送株式会社（沼津支社）、株式会社テレビ静岡（沼津支所）、株式会社静岡朝日テレ
ビ（東部支社）、株式会社静岡第一テレビ（東部支局）、静岡エフエム放送株式会社、株式会
社FMIS
 - (ア) 津波防災に関するキャンペーン番組、定時ニュース番組等による防災知識の普及
 - (イ) 災害時において特別番組を編成し、津波警報等津波に関する情報、国、県、市、防災関係機関
等の防災活動状況を放送すること
 - (ウ) 放送施設、機器類等の整備の事前点検と災害予防のための設備の整備
 - カ 一般社団法人静岡県トラック協会（東部支部）、一般社団法人静岡県バス協会（株式会社東
海バス・伊豆箱根バス株式会社・みやび有限会社）、商業組合静岡県タクシー協会（伊豆箱根
交通株式会社・伊豆土肥交通株式会社・天城タクシー株式会社・株式会社寺山自動車）
防災関係機関の要請に基づき、協会加盟事業所からの緊急輸送車両等の確保
 - キ 一般社団法人静岡県警備業協会
災害時の道路交差点での交通整理支援
 - ク 公益社団法人静岡県栄養士会

《津波対策編》
第1章

- ア 要配慮者等への食料品の供給に関する協力
- イ 避難所における健康相談に関する協力
- ケ 一般社団法人静岡県建設業協会（伊豆市建設業協会）
公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
- コ 富士山静岡空港株式会社
大規模な広域防災拠点としての応援部隊等の受入支援

6 自衛隊

- (1) 陸上自衛隊富士教導団ほか
 - ア 災害時における人命又は財産保護のための救援活動
 - イ 災害時における応急復旧活動
- (2) 海上自衛隊横須賀地方隊ほか
 - ア 災害時における人命保護のための救助
 - イ 災害時における応急復旧活動
- (3) 航空自衛隊第1航空団
 - ア 災害時における人命保護のための救助
 - イ 災害時における応急復旧活動

第2節 予想される災害

- 本市に著しい被害を発生させるおそれがある地震・津波としては、その発生の切迫性が指摘されている駿河湾及び駿河トラフ付近におけるプレート境界を震源域とする東海地震（マグニチュード8クラス）がある。このほか、駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震として、東南海地震や南海地震（それぞれマグニチュード8クラス）があり、また、これらの地震が連動して、あるいは時間差を持って発生する可能性も考えられる。一方、相模トラフ・相模湾側では、大正型関東地震（マグニチュード7.9程度）や神奈川県西部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震がある。
- また、東日本大震災の教訓として「想定外は許さない」という観点から、発生する頻度は極めて小さいが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波として、南海トラフ巨大地震（マグニチュード9クラス）や元禄型関東地震（マグニチュード8.1程度）などの巨大地震についても発生することを想定する必要がある。
- この他、山梨県東部や伊豆半島、静岡県中部などを震源とする地震活動にも注意を払っておく必要がある。
- 津波については、上記地震によるものの他、南北アメリカ大陸沿岸等の環太平洋地域で発生した地震による遠地津波についても警戒が必要である。

1 第4次地震被害想定

- 地震によって、県下の各地でどのような現象が発生し、どの程度の被害を受けるかを定量的に試算した結果を示し、的確かつ効果的な防災対策の樹立に資するものである。
- 試算については、本県において、最大級の災害が想定される地震として、中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告」などを踏まえ、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル1・2の地震・津波を対象とした。なお、試算に用いた断層モデルは、現時点での科学的知見に基づき検討されたものであり、今後の科学的知見の蓄積を踏まえて検証され、場合によっては修正される可能性があることに留意するものとする。

※ 以下、被害想定については、伊豆市に係る分を抽出した。

区分	レベル1の地震・津波	レベル2の地震・津波
----	------------	------------

《津波対策編》
第1章

駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波	東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震、宝永型地震、安政東海型地震、5地震総合モデル	南海トラフ巨大地震（内閣府（2012））
相模トラフ沿いで発生する地震・津波	大正型関東地震	元禄型関東地震（※） 相模トラフ沿いの最大クラスの地震（内閣府（2013））

※ 相模トラフ沿いでは約200～400年間隔で海溝型（プレート境界型）の地震が発生しており、このうち元禄16年（1703年）元禄関東地震は大正12年（1923年）大正関東地震に比べ広い震源域を持つ既往最大の地震とされている。

注）内閣府（2012）：南海トラフ巨大地震による津波高・浸水域等（第二次報告）及び被害想定（第一次報告）について（以下同じ）

内閣府（2013）：首都直下のM7クラスの地震及び相模トラフ沿いのM8クラスの地震等の震源断層モデルと震度分布・津波高等に関する報告書

○ なお、この試算値は、今後、適切かつ効果的な地震対策の推進、さらに県民の防災への自助・共助の努力を積み重ねることによって、大幅に減少させることができると考えられる。

2 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等）の被害想定の結果

(1) 概説

○ この試算は、駿河トラフから南海トラフの領域を震源域に、東海地震、東海・東南海地震、東海・東南海・南海地震等が発生した場合を想定して行ったものである。

○ 試算に当たって、津波断層モデルは、中央防災会議（2003）の東海・東南海・南海地震のモデルを使用している。

注）中央防災会議（2003）：「東南海、南海地震等に関する専門調査会」（第16回）報告書

○ また、地震予知がなく地震が発生した場合と警戒宣言が発せられた後地震が発生した場合について、それぞれ試算をしている。

(2) 建物等被害に係る想定結果

（単位：棟）

項目	被害区分	予知なし			予知あり
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	約80	約80	約80	約80
	半壊	約800	約800	約800	約800
液状化	全壊	約20	約20	約20	約20
	半壊	約40	約40	約40	約40
津波	全壊	約200	約200	約200	約200
	半壊	約400	約400	約400	約400
山・崖崩れ	全壊	約100	約100	約100	約100
	半壊	約200	約200	約200	約200
火災	焼失	－	－	－	－
建物棟数※1		21,513			
建物被害総数	全壊及び焼失	約400	約400	約400	約400
	半壊	約1,600	約1,600	約1,600	約1,600
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	1.8	1.8	1.8	1.8
	半壊	7.4	7.4	7.4	7.4

「－」：被害わずか

注）・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊

・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ－1. 1「市町

《津波対策編》
第1章

別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位；人)

項目		被害区分	予知なし			予知あり		
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物東海 (うち屋内 収容物移 動・転倒、 屋内落下 物)	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
		重傷者数	約 10 (-)	約 50 (-)	約 20 (-)	- (-)	約 10 (-)	- (-)
		軽傷者数	約 200 (約 10)	約 200 (約 10)	約 100 (約 10)	約 40 (-)	約 60 (-)	約 40 (-)
	早期避難 率低	死者数	- (-)	- (-)	- (-)	/		
		重傷者数	約 10 (-)	約 50 (-)	約 20 (-)			
		軽傷者数	約 200 (約 10)	約 200 (約 10)	約 100 (約 10)			
津波	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	約 900	約 300	約 400	約 100	約 70	約 90
		重傷者数	約 30	約 10	約 20	-	-	-
		軽傷者数	約 60	約 30	約 30	約 10	-	約 10
	早期避難 率低	死者数	約 900	約 600	約 700	/		
		重傷者数	約 30	約 20	約 30			
		軽傷者数	約 60	約 40	約 50			
山・崖崩れ	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	約 10	-	約 10	-	-	-
		重傷者数	約 10	-	-	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	-	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 10	-	約 10	/		
		重傷者数	約 10	-	-			
		軽傷者数	約 10	-	-			
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	約 1,000	約 300	約 400	約 100	約 70	約 90
		重傷者数	約 50	約 60	約 40	約 10	約 20	約 10
		軽傷者数	約 200	約 200	約 200	約 50	約 70	約 50
	早期避難 率低	死者数	約 1,000	約 600	約 800	/		
		重傷者数	約 50	約 70	約 50			
		軽傷者数	約 200	約 300	約 200			
自力脱出困難者数	地震動	約 10	-	-	/			

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

※ 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

3 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（南海トラフ巨大地震）の被害想定の結果

《津波対策編》
第1章

(1) 概説

- この試算は、東側を駿河湾における南海トラフのトラフ軸（富士川河口断層帯を含む）とし、南西側（日向灘側）を九州・パラオ海嶺の北側でフィリピン海プレートが厚くなる領域までを震源域に、マグニチュード9程度の地震が発生した場合を想定して行ったものである。
- 地震予知がなく地震が発生した場合と警戒宣言が発せられた後地震が発生した場合について、それぞれ試算をしている。

(2) 建物等被害に係る想定結果

【地震動：基本ケース、津波：ケース①】

(単位：棟)

項目	被害区分	予知なし			予知あり
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	約 80	約 80	約 80	約 80
	半壊	約 800	約 800	約 800	約 800
液状化	全壊	約 20	約 20	約 20	約 20
	半壊	約 20	約 20	約 20	約 20
津波	全壊	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
	半壊	約 100	約 100	約 100	約 100
山・崖崩れ	全壊	約 100	約 100	約 100	約 100
	半壊	約 200	約 200	約 200	約 200
火災	焼失	-	-	-	-
建物棟数※1		21,513			
建物被害総数	全壊及び焼失	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200
	半壊	約 1,200	約 1,200	約 1,200	約 1,200
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	5.5	5.5	5.5	5.5
	半壊	5.5	5.5	5.5	5.5

「-」：被害わずか

注)・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
- ・ 半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ-1. 1「市町別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

【地震動：陸側ケース、津波：ケース①】

(単位：棟)

項目	被害区分	予知なし			予知あり
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	約 10	約 10	約 10	約 10
	半壊	約 100	約 100	約 100	約 100
液状化	全壊	約 20	約 20	約 20	約 20
	半壊	約 20	約 20	約 20	約 20
津波	全壊	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
	半壊	約 100	約 100	約 100	約 100
山・崖崩れ	全壊	約 70	約 70	約 70	約 70
	半壊	約 200	約 200	約 200	約 200
火災	焼失	-	-	-	-

《津波対策編》
第1章

建物棟数※1		21,513			
建物被害総数	全壊及び焼失	約 1,100	約 1,100	約 1,100	約 1,100
	半壊	約 400	約 400	約 400	約 400
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	5.1	5.1	5.1	5.1
	半壊	1.8	1.8	1.8	1.8

「-」：被害わずか

注)・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
- ・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ-1.1「市町別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

【地震動：東側ケース、津波：ケース①】

（単位：棟）

項目	被害区分	予知なし			予知あり
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
地震動	全壊	約 400	約 400	約 400	約 400
	半壊	約 1,700	約 1,700	約 1,700	約 1,700
液状化	全壊	約 20	約 20	約 20	約 20
	半壊	約 20	約 20	約 20	約 20
津波	全壊	約 1,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000
	半壊	約 100	約 100	約 100	約 100
山・崖崩れ	全壊	約 100	約 100	約 100	約 100
	半壊	約 300	約 300	約 300	約 300
火災	焼失	-	-	約 10	-
建物棟数※1		21,513			
建物被害総数	全壊及び焼失	約 1,500	約 1,500	約 1,500	約 1,500
	半壊	約 2,200	約 2,200	約 2,200	約 2,200
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	6.9	6.9	6.9	6.9
	半壊	9.2	9.2	9.2	9.2

「-」：被害わずか

注)・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
- ・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ-1.1「市町別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

(3) 人的被害に係る想定結果

【地震動：基本ケース、津波：ケース①】

（単位：人）

項目	被害区分	予知なし			予知あり		
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊	早期避難	死者数	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)

《津波対策編》
第1章

(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	率高 +呼びかけ	重傷者数	約 10(-)	約 50(-)	約 20(-)	-(-)	約 10(-)	-(-)
		軽傷者数	約 200 (約 10)	約 200 (約 10)	約 100 (約 10)	約 40 (-)	約 60 (-)	約 40 (-)
	早期避難 率低	死者数	-(-)	-(-)	-(-)			
		重傷者数	約 10(-)	約 50(-)	約 20(-)			
津波	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 10	-	-	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	約 10	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 10	-	約 10			
		軽傷者数	約 20	約 10	約 10			
山・崖崩れ	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 10	-	約 10	-	-	-
		重傷者数	約 10	-	-	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	-	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 10	-	約 10			
		重傷者数	約 10	-	-			
		軽傷者数	約 10	-	-			
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 20	約 50	約 20	-	約 10	約 10
		軽傷者数	約 200	約 200	約 100	約 50	約 60	約 40
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 20	約 60	約 30			
		軽傷者数	約 200	約 200	約 200			
自力脱出困難者数	地震動	約 10	-	-				

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

※ 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

【地震動：陸側ケース、津波：ケース①】

(単位：人)

項目	被害区分	予知なし			予知あり			
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
建物倒壊 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内)	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
		重傷者数	-(-)	約 10(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
	早期避難 率低	死者数	約 30 (約 10)	約 90 (約 10)	約 40 (約 10)	約 10 (-)	約 20 (-)	約 10 (-)
		軽傷者数	約 30 (約 10)	約 90 (約 10)	約 40 (約 10)	約 10 (-)	約 20 (-)	約 10 (-)
	早期避難	死者数	-(-)	-(-)	-(-)			

《津波対策編》
第1章

落下物)	率低	重傷者数	-(-)	約 10(-)	-(-)			
		軽傷者数	約 30 (約 10)	約 90 (約 10)	約 40 (約 10)			
津波	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 10	-	-	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	約 10	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 10	-	約 10			
		軽傷者数	約 20	約 10	約 10			
山・崖崩 れ	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 10	-	-	-	-	-
		重傷者数	-	-	-	-	-	-
		軽傷者数	-	-	-	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 10	-	-			
		重傷者数	-	-	-			
		軽傷者数	-	-	-			
重傷者数		-	-	-				
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 10	約 10	約 10	-	-	-
		軽傷者数	約 40	約 90	約 40	約 10	約 30	約 10
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 10	約 10	約 10			
		軽傷者数	約 50	約 100	約 50			
自力脱出困難者数	地震動	-	-	-				

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

※ 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

【地震動：東側ケース、津波：ケース①】

(単位：人)

項目	被害区分	予知なし			予知あり			
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
建物倒壊 (うち屋 内収容物 移動・転 倒、 屋内落下 物)	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 10(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)	-(-)
		重傷者数	約 40(-)	約 100(-)	約 50(-)	約 10(-)	約 30(-)	約 10(-)
		軽傷者数	約 400 (約 20)	約 400 (約 10)	約 300 (約 10)	約 100 (-)	約 100 (-)	約 80 (-)
	早期避難 率低	死者数	約 10(-)	-(-)	-(-)			
		重傷者数	約 40(-)	約 100(-)	約 50(-)			
		軽傷者数	約 400 (約 20)	約 400 (約 10)	約 300 (約 10)			

《津波対策編》
第1章

津波	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 10	-	-	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	約 10	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 10	-	約 10			
		軽傷者数	約 20	約 10	約 10			
山・崖崩れ	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 10	-	約 10	-	-	-
		重傷者数	約 10	-	約 10	-	-	-
		軽傷者数	約 10	-	約 10	-	-	-
	早期避難 率低	死者数	約 10	-	約 10			
		重傷者数	約 10	-	約 10			
		軽傷者数	約 10	-	約 10			
重傷者数		-	-	-				
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約 1,400	約 800	約 1,100	約 200	約 100	約 200
		重傷者数	約 50	約 100	約 60	約 10	約 40	約 20
		軽傷者数	約 400	約 400	約 300	約 100	約 100	約 80
	早期避難 率低	死者数	約 1,400	約 1,000	約 1,300			
		重傷者数	約 50	約 100	約 60			
		軽傷者数	約 400	約 400	約 300			
自力脱出困難者数	地震動	約 20	約 10	約 10				

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

※ 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

4 相模トラフ沿いで発生するレベル1の地震・津波（大正型関東地震）の被害想定の結果

(1) 概説

- この試算は、南関東地域直下の地震のうち、本県に大きな影響が想定される大正型関東地震が発生した場合を想定して行ったものである。
- 試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、過去の地震被害例を参考に数値計算を行い、地震動・液状化危険度及び津波波高の想定をしている。

(2) 建物等被害に係る想定結果

(単位：棟)

項目	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
地震動	全壊	約 60	約 60	約 60
	半壊	約 600	約 600	約 600
液状化	全壊	約 10	約 10	約 10
	半壊	約 40	約 40	約 40
人工造成地	全壊	-	-	-
	半壊	-	-	-
山・崖崩れ	全壊	約 80	約 80	約 80
	半壊	約 200	約 200	約 200

《津波対策編》
第1章

火災	焼失	-	-	-
建物棟数※1		21,513		
建物被害総数	全壊及び焼失	約100	約200	約200
	半壊	約800	約800	約800
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	0.4	0.9	0.9
	半壊	3.7	3,7	3.7

「-」：被害わずか

注)・端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
- ・半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ-1.1「市町別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位：人)

項目		被害区分	予知なし			予知あり		
			冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
建物倒壊 (うち屋内収容物 移動・転倒、 屋内落下物)	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	-(-)	-(-)	-(-)			
		重傷者数	約10(-)	約30(-)	約10(-)			
		軽傷者数	約100 (約10)	約200 (約10)	約90 (約10)			
	早期避難 率低	死者数	-(-)	-	-(-)			
		重傷者数	約10(-)	約30(-)	約10(-)			
		軽傷者数	約100 (約10)	約200 (約10)	約90 (約10)			
津波	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	-	-	-			
		重傷者数	-	-	-			
		軽傷者数	-	-	-			
	早期避難 率低	死者数	-	-	-			
		重傷者数	-	-	-			
		軽傷者数	-	-	-			
山・崖崩れ	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約10	-	約10			
		重傷者数	-	-	-			
		軽傷者数	-	-	-			
	早期避難 率低	死者数	約10	-	約10			
		重傷者数	-	-	-			
		軽傷者数	-	-	-			
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	約10	-	約10			
		重傷者数	約10	約30	約10			
		軽傷者数	約100	約200	約100			
	早期避難 率低	死者数	約10	-	約10			
		重傷者数	約10	約30	約10			
		軽傷者数	約100	約200	約100			

《津波対策編》
第1章

自力脱出困難者数	地震動	-	-	-	
----------	-----	---	---	---	--

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

5 相模トラフ沿いで発生するレベル2の地震・津波（元禄型関東地震）の被害想定の結果

(1) 概説

- この試算は、南関東地域直下の地震のうち、本県に最も大きな影響が想定される元禄型関東地震が発生した場合を想定して行ったものである。
- 試算に当たっては、地質や地盤、海岸現況等の基本データを利用し、過去の地震被害例を参考に数値計算を行い、地震動・液状化危険度及び津波波高の想定をしている。

(2) 建物等被害に係る想定結果

(単位：棟)

項目	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
地震動	全壊	約 100	約 100	約 100
	半壊	約 1,000	約 1,000	約 1,000
液状化	全壊	約 20	約 20	約 20
	半壊	約 50	約 50	約 50
津波	全壊	-	-	-
	半壊	約 20	約 20	約 20
山・崖崩れ	全壊	約 100	約 100	約 100
	半壊	約 300	約 300	約 300
火災	焼失	-	-	-
建物棟数※1		21,513		
建物被害総数	全壊及び焼失	約 300	約 300	約 300
	半壊	約 1,300	約 1,300	約 1,300
建物被害率(%) ※2	全壊及び焼失	1.3	1.3	1.3
	半壊	6.0	6.0	6.0

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 全壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊
- ・ 半壊：災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

※1 建物棟数：「静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告 H25.6.27）の表Ⅲ-1.1「市町別・構造別の建物棟数」内の伊豆市における棟数

※2 建物被害率＝「全壊及び焼失」又は「半壊」総数／伊豆市建物棟数×100（小数点第2位以下切捨）

(3) 人的被害に係る想定結果

(単位：人)

項目	被害区分	予知なし			予知あり			
		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	
建物倒壊 (うち屋内収容物移動・転)	早期避難 率高 +呼びかけ	死者数	-(-)	-(-)	-(-)	/		
	重傷者数	約 10(-)	約 50(-)	約 10(-)				
	軽傷者数	約 200 (約 10)	約 200 (約 10)					

《津波対策編》
第1章

倒、屋内 落下物)	早期避難 率低	死者数	-(-)	-(-)	-(-)
		重傷者数	約 10(-)	約 50(-)	約 10(-)
		軽傷者数	約 200 (約 10)	約 200 (約 10)	
津波	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	-	-	-
		重傷者数	-	-	-
		軽傷者数	-	-	
	早期避難 率低	死者数	-	-	-
		重傷者数	-	-	-
		軽傷者数	-	-	
山・崖崩 れ	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	約 10	-	約 10
		重傷者数	約 10	-	-
		軽傷者数	約 10	-	
	早期避難 率低	死者数	約 10	-	約 10
		重傷者数	約 10	-	-
		軽傷者数	約 10	-	
死傷者数 合計	早期避難 率高 +呼びか け	死者数	約 10	約 10	約 10
		重傷者数	約 20	約 50	約 10
		軽傷者数	約 200	約 200	
	早期避難 率低	死者数	約 10	約 10	約 10
		重傷者数	約 20	約 50	約 10
		軽傷者数	約 200	約 200	
自力脱出困難者数	地震動	約 10	-	-	

「-」：被害わずか

注)・ 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

- ・ 倒壊：建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井（1999）による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
- ・ 重傷者：1ヶ月以上の治療を要する負傷者
- ・ 軽傷者：1ヶ月未満の治療を要する負傷者

6 遠地津波

○ チリ沖地震のように南北アメリカ大陸沿岸等の環太平洋地域で発生した地震による遠地津波についても警戒が必要である。

(1) 概要

- ・ 遠地津波は、国外など遠方で発生する地震により生じた津波である。
- ・ 遠地津波は、海溝型巨大地震に伴って発生するものであるが、地球上の海溝の大部分が太平洋にあり、環太平洋地震帯を作っているため、日本には太平洋各地から遠地津波が襲来する。
- ・ 過去の遠地津波で大津波を記録したのは、チリ海溝及び千島・カムチャッカ海溝等で起きた地震に伴う津波である。
- ・ 過去の事例によると遠地津波が襲来するまでのおおよその時間については、チリ沖地震の場合で24時間後、インドネシア・パプアニューギニアの場合で6～7時間後、千島・カムチャッカ半島の場合で3時間後に第1波が到達する場合がある。

(2) 特徴等

- ・ 津波が遠地で起きる地震で発生するため、地震の揺れを感じることもなくとも津波に襲われる。
- ・ 遠地津波は途中経路の地形により様々な屈折や反射をしながら伝わる。そのため、遠地津波

《津波対策編》 第1章

は一般に近地津波に比べて津波の減衰が遅くなり、すなわち津波の継続時間が長くなる傾向がある。例えば、チリ沖地震では津波が1日続き、インドネシアの地震では6～8時間継続したことがある。

- ・ 遠地津波では、到達途中での反射などにより、最大波が第1波のかなり後に襲来することがあり、第3波や第4波が最大波となることがある。
- ・ 遠地津波は、地震を感じることなく不意に襲来することや継続時間が長いことから、早期に津波関連情報を取得し、避難態勢や防災体制を確立することや、津波警報が解除されるまで避難態勢を維持することが重要である。

《津波対策編》
第2章

第2章 平常時対策

津波発生時に、的確な防災対策が講じられるようにするため、平常時に行う防災思想の普及、防災訓練等について定める。

第1節 防災思想の普及

(共通対策編 第2章 災害予防計画 第4節 防災知識の普及計画 に準ずる。)

第2節 自主防災活動

(共通対策編 第2章 災害予防計画 第8節 自主防災組織の育成 に準ずる。)

第3節 防災訓練の実施

- 市は、津波災害発生時に的確な防災対策を実施するための訓練について定める。
- 市民は、自主防災組織及び事業所等の防災組織の構成員として市や県の実施する訓練に積極的に参加し、的確な防災対応を体得するものとする。
- なお、高齢者、障害のある人、外国人、乳幼児、妊産婦等災害時要配慮者に十分配慮した訓練を実施し、要配慮者の支援体制の整備に努めるとともに、被災時の男女のニーズの違い等男女双方の視点に十分配慮するよう努めるものとする。

1 伊豆市

- 市は、総合防災訓練、地域防災訓練及び津波避難訓練を実施する。そのほか、国、県、他の市町及び防災関係機関と共同して、又は単独で、県に準ずる各種の防災訓練を実施する。
- 訓練に当たっては、要配慮者の避難誘導、救出・救助、自主防災組織と事業所等との連携による防災活動など、地域の特性に配慮して実施するものとする。

区分	内容
津波避難訓練	ア 3月11日を含む10日間を「津波対策推進旬間」と定め、沿岸地域において津波避難訓練を実施する。 イ この訓練は、「津波警報」が発表されたことを想定するものとし、県が作成した訓練内容に関する指針を参考にして実施する。

第4節 津波災害予防対策の推進

- 市は、津波災害対策の検討に当たり、科学的知見を踏まえ、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの津波を想定する。
- 市は、津波災害対策の検討において、二つのレベルの津波の想定とそれぞれの対策を進める。
 - ・ 最大クラスの津波に対する住民避難を軸とした総合的な対策
 - ・ 比較的頻度の高い津波に対する海岸保全施設等の整備
- 市は、津波による災害の発生を予防し又は軽減するための対策等平常時の予防対策を定める。
- 市は、第4次地震被害想定において推計された被害をできる限り軽減するための新たな行動目標として策定した「伊豆市地震・津波対策アクションプログラム 2013」により、ハード・ソフトの両面からできる限り組み合わせて対策を充実・強化する。
- 「首都直下地震地方緊急対策実施計画」における対象区域は首都直下地震地方緊急対策区域に指定された市町とし、必要な対策の実施期間及び目標等については、「伊豆市地震・津波対策アクションプログラム 2013」が兼ねるものとする。

《津波対策編》
第2章

1 避難誘導體制の確保

1-1 避難計画の改訂

市は、下記の事項及び県が作成する「大規模地震対策『避難計画策定指針』」に留意して、伊豆市避難計画の見直しに努めるものとする。（資料編3-5-1「伊豆市津波避難計画」）

ア 要避難地区の指定

第4次地震被害想定の結果等から判断して、市地震防災強化計画において明らかにした、津波による浸水の発生の危険が予想され、避難対策を推進する必要がある地域を要避難地区として指定する。

イ 津波避難対象地区の指定

警戒宣言発令時に避難指示の対象とする地域として、要避難地区のうち、津波による浸水の発生の危険が予想される地域を津波避難対象地区として指定する。

ウ 避難地、津波避難施設、避難路の指定

要避難地区の状況に応じ、住民の避難のための避難地、津波避難施設、避難路等の指定を行う。

(ア) 避難対象地区の住民の避難のため、避難地を指定する。

(イ) 延焼火災発生時における避難のため、指定避難地、幹線避難路を指定する。また、必要に応じ一次避難地を指定する。

(ウ) 突発地震発生時の緊急避難の用に供する避難ビル等の施設を指定する。

1-2 平常時に実施する災害予防措置

(1) 避難誘導體制整備

○ 市長は、要避難地区の住民に対し、危害の様相、情報伝達手段、情報伝達内容、避難地、避難路、避難施設等避難に関する留意すべき事項を周知するとともに、高齢者、障害のある人等の要配慮者を適切に避難誘導するため、地域住民、自主防災組織等の協力を得ながら、平常時よりこれらの者に係る避難誘導體制の整備に努めるものとする。

○ 防災対応や避難誘導に当たる者の危険を回避するため、津波到達時間内での防災対応や避難誘導に係る行動ルールを定めるものとする。また、特に市等が、消防機関及び水防団による津波からの円滑な避難の確保等のために実施すべき事項は、以下のとおりとする。

- ・ 津波警報等の情報の的確な収集及び伝達
- ・ 津波からの避難誘導
- ・ 自主防災組織等の津波避難計画作成等に対する支援
- ・ 津波到達予想時間等を考慮した退避ルールの確立等

○ 市は、津波災害に対する住民の警戒避難体制として、津波警報等が発表された場合に直ちに避難指示等を発令することを基本とし、津波警報等で発表される津波高に応じた発令対象区域を定めるなど、具体的な避難指示等の発令基準を設定するものとする。

(2) 要避難地区における予防措置

○ 要避難地区については次の予防措置を講ずる。

ア 津波危険予想図

市は、県と協力して、過去の津波災害事例及び現況調査等を参考に、津波危険予想図を作成し、海拔標示等を行う等、住民への広報に努める。

イ 避難方法等の周知

市長は、当該地域を避難対象地区として指定するとともに、当該地域の住民及び船舶等に対して津波の危険や津波注意報・警報、避難指示の意味合い、避難方法等の周知に努める。

ウ 避難対策

(ア) 市長は、海岸、港湾及び漁港の管理者と協議して、避難地等を標示したわかりやすい案内板を設置するとともに、関係団体の協力を得て要配慮者の避難誘導體制を整備するなど、避難対策等の防災対策を推進する。

(イ) 市長は、現地の地理に不案内な観光客、出張者等の一時滞在者が想定される場合は、要避難地区であることや想定浸水深、避難地・避難経路等について、看板・チラシ・パンフレット等により広報するなど、一時滞在者の円滑な避難対策に配慮するよう努める。

(ウ) 市は、海浜利用者等がすみやかに津波から避難できるよう、防潮堤に避難口、避難階段等の施設及び誘導のための標識板等の整備に努める。

《津波対策編》
第2章

エ 南海トラフ地震臨時情報発表時

市長は、南海トラフ地震臨時情報発表せられた場合には、市等からの指示を受けるまでもなく、直ちに海岸から離れ避難地等へ避難する等、住民のとるべき行動について周知徹底に努める。

オ 地震発生時

(ア) 市長は、突発地震にも備えるため、建物所有者の協力を得て津波から逃れるための避難ビルの確保に努める。

(イ) 当該地域の住民に対して、立ってられないほどの強い地震が起こった場合又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた場合には、市等からの指示を受けるまでもなく、直ちに海岸から離れ、避難ビル、高台又は避難地等へ避難する等、住民のとるべき行動について周知徹底に努める。

カ 水門、陸閘

水門等管理者は、水門、陸閘等の操作の体制及び手順を定め、関係者に周知するとともに、陸閘の常時閉鎖を推進する。

2 津波に強いまちづくり

- 市は、津波から迅速かつ確実な避難を実現するため、徒歩による避難を原則として、地域の実情を踏まえつつ、津波防災地域づくり法に基づく「伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり推進計画」（以下「推進計画」という）などにより警戒避難体制の整備を進め、できるだけ短時間で避難が可能となるようなまちづくりを目指す。
- 市は、浸水の危険性の低い地域を居住地域とするような土地利用計画、できるだけ短時間で避難が可能となるような避難関連施設の都市計画と連携した計画的整備や民間施設の活用による確保、津波に強いまちの形成を図るものとする。
- 市は、地域防災計画、都市計画、立地適正化計画等の計画相互の有機的な連携を図るため共同での計画作成など津波防災の観点からのまちづくりに努めるものとする。
- 市は、伊豆市全域を推進計画区域とした【環境】【観光】【防災】のバランスのとれたまちづくりを進めるうえでの方向性や取り組みを示すことを目的に、推進計画の逐次見直しを図る。
- 市は、津波による危険の著しい区域については、人的災害を防止するため、指定された津波防災地域づくり法に基づく「海のまち安全創出エリア（津波災害特別警戒区域）」（以下「安全創出エリア」という）への対策を進め、建築基準法に基づく災害危険区域の指定について、ていねいに進める。
- 市は、津波による浸水実績及び津波浸水想定を公表し、安全な土地利用、津波発生時の警戒避難体制の整備を行う。
- 市は、行政関連機関、要配慮者に係る施設については、できるだけ浸水の危険性の低い場所に立地するよう整備するものとし、やむを得ず浸水のおそれのある場所に立地する場合には、建築物の耐浪化、非常用電源の設置場所の工夫など施設の防災拠点化を図るとともに、中長期的には浸水の危険性のより低い場所へ誘導を図るものとする。
- 市は、最大クラスの津波に対して、住民等の生命を守ることを最優先としつつ、生活や産業への被害を軽減する観点からのまちづくりを進めるものとする。

(1) 津波避難計画・ハザードマップ等の整備促進

市等が作成する津波避難計画やハザードマップ等については、レベル2の津波に対応するものとなるよう、第4次被害想定を基に点検、見直しを促進する。

新規に作成する必要がある場合は、早期に作成できるよう、必要に応じて県はその支援に当たるとともに、住民への情報提供を促進する。

市は、市地域防災計画に基づき、「海のまち安全避難エリア（津波災害警戒区域）」（以下「安全避難エリア」という）及び当該区域における基準水位を表示した図面に、人的災害を生ずるおそれがある津波に関する情報の伝達方法、避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項その他警戒区域における円滑な警戒避難を確保する上で必要な事項を住民等に周知させるため、これらの事項を記載した印刷物（ハザードマップ）の配布その他の必要な措置を講ずるものとする。

(2) 適切な避難行動の周知徹底

《津波対策編》
第2章

市民一人ひとりに、津波に関する正確な知識や発災時にとるべき行動を理解いただけるよう、あらゆる機会をとらえて周知を図るとともに、実践的な津波避難訓練を定期的実施する。

(3) 市民への伝達手段の多重化・多様化

- ・ 津波警報等の情報が、市民一人ひとりに迅速に届くよう、防災同報無線や、緊急速報メール、視・聴覚的伝達方法等の伝達手段の強化に努める。
- ・ 市は、赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）による津波警報等の視覚的な伝達の実効性を高めるため、国等の関係機関と連携し、普及啓発を図るものとする。

(4) 安全避難エリアの指定に伴う実施事項

【市地域防災計画に定める事項】

ア 市防災会議は、次の事項を市地域防災計画において、次に掲げる事項について定める。

- ① 人的災害を生ずるおそれがある津波に関する情報の収集及び伝達並びに予報又は警報の発令及び伝達に関する事項
- ② 避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項
- ③ 災害対策基本法第48条第1項の防災訓練として市長が行う津波に係る避難訓練の実施に関する事項
- ④ 警戒区域内に、社会福祉施設又は、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要するものが利用する施設であって、当該施設の利用者の津波の発生時における円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるもの（以下「避難促進施設」という）がある場合にあっては、これらの施設の名称及び所在地
- ⑤ ①～④に掲げるもののほか、警戒区域における津波による人的災害を防止するために必要な警戒避難体制に関する事項

イ 市防災会議は、市地域防災計画において前項④に掲げる事項を定めるときは、施設の利用者の津波の発生時における円滑かつ迅速な避難の確保が図られるよう、人的被害を生ずるおそれがある津波に関する情報、予報及び警報の伝達に関する事項を定めるものとする。

ウ 市防災会議は、津波防災地域づくり法に基づき指定避難施設が指定されたときは、ア②の避難施設に関する事項として、地域防災計画において定めるものとする。併せて、当該指定避難施設の管理者に対する人的災害を生ずるおそれがある津波に関する情報、予報及び警報の伝達方法をア①に掲げる事項として定めるものとする。

エ 市防災会議は、市が指定避難施設の避難用部分を自ら管理すると認め、施設所有者等との間において管理協定を締結したときは、当該管理協定に係る協定避難施設に関する事項をア②の避難施設に関する事項として定めるものとする。（資料編3-5-1「伊豆市津波避難計画」）

【避難促進施設における避難確保計画の策定】

避難促進施設の所有者及び管理者は、以下に掲げる事項について定めた避難確保計画を作成し、これを市長に報告するものとする。

- ① 津波発生時における避難促進施設の防災体制
- ② 津波発生時における避難促進施設利用者の避難の誘導
- ③ 津波の発生時を想定した避難促進施設における避難訓練及び防災教育の実施
- ④ 避難促進施設の利用者の津波の発生時の円滑かつ迅速な避難を確保するために必要な事項
市は、安全避難エリア内の避難促進施設に係る避難確保計画の作成又は避難訓練の実施に関し必要な助言又は勧告等を行い、施設所有者又は管理者による取組の支援に努めるものとする。

(5) 安全創出エリアの指定に伴う実施事項

- ・ 県等は、安全創出エリアにおいて特定開発行為（要配慮者が利用する社会福祉施設、学校及び医療施設）を制限する。
- ・ 県等は、安全創出エリアにおいて特定建築行為（要配慮者が利用する社会福祉施設、学校及び医療施設）を規制する。

3 津波避難施設等の整備

- 市は、津波から迅速かつ確実な避難を実現するため、徒歩による避難を原則として、地域の実情をふまえつつ、できるだけ短時間で避難が可能となるようなまちづくりを目指す。

《津波対策編》
第2章

- 津波による災害の発生を予防し又は軽減するため、「伊豆市地震・津波対策アクションプログラム 2013」に基づき下記の施設整備等を実施する。
- 津波により海岸保全施設が被災した場合でも、その復旧が迅速に行うことができるようあらかじめ対策をとるとともに、効果を十分発揮するよう維持管理するものとする。
- 避難地（屋内施設含む）・津波避難施設の整備にあたり、できるだけ津波の浸水の危険性が低く、かつ避難後においても孤立せず、津波の襲来状況によっては更なる避難が可能となる場所に整備するよう努めるものとする。
- 避難路・避難階段の整備に当たってはその周知に努めるとともに、その安全性の点検及び避難時間短縮のための工夫・改善に努めるものとする。
- 避難地（屋内施設含む）・津波避難施設を津波による浸水の恐れがある場所に整備する場合は、想定浸水深を十分考慮した高さに避難者を受け入れる部分が配置され、かつ、その部分までの避難上有効な階段その他の経路を備えた施設等を整備するものとする。
- 地域住民の津波からの円滑な避難を確保するため、要避難地区等における水道管の破損を防止する措置（耐震性を備えた管路及び配水池緊急遮断弁の整備等）に努めるものとする。

(1) 津波を防ぐ施設高の確保

レベル1の津波を対象に、施設高の高さが不足している箇所については、津波を防御できる高さまで嵩上げを行う対策の検討を進めていく。

(2) 施設の質的強化

津波を防ぐ施設に関して、耐震性を確保（液状化対策等）し、津波が施設を乗り越えた場合にも粘り強く減災効果を発揮する構造（耐浪性があり、洗屈されにくい構造）への改良を行う。

管理施設については、定期的に点検を行うものとする。また、陸閘等の閉門の自動化を推進するものとする。

(3) 「静岡モデル」防潮堤の整備

津波を防ぐ施設は、レベル1の津波を防ぐ高さの確保及び質的な強化に加え、津波の到達時間が短く、多くの人口、資産を抱えている低平地では広範囲に甚大な浸水被害が想定されるという本県特有の課題に対して、地域住民の合意など条件が整った地域では、既存の防災林、砂丘、道路の嵩上げ・補強等による安全度の向上策「静岡モデル」防潮堤の整備を推進する。整備に当たっては、潜在自然植生、先人の知恵、地域の人々という地域の場の力を生かして行う「ふじのくに森の防潮堤づくり」と連携して推進し、多重防御による津波被害の軽減を図る。

(4) 安全な避難空間の確保

レベル2の津波に対しても津波到達時間内に安全に避難できるよう津波避難ビルの指定、津波避難タワーや命山の設置、避難路の整備等の支援により避難困難エリアの解消に努める。

第3章 災害応急対策

津波災害が発生した場合の県、市、防災関係機関、事業所及び県民等の災害応急対策について定める。

なお、ここに定めのないものについては「地震対策編」及び「共通対策編」に準ずる。

第1節 防災関係機関の活動

津波発生時の県、市及び防災関係機関の災害応急対策の組織、要員の確保及び活動の概要並びに警戒本部との関連について定める。

1 伊豆市

(1) 市災害対策本部の設置

市長は、津波災害が発生し災害応急対策を実施する必要があると認めた時は、伊豆市災害対策本部（以下「市災害対策本部」という。）を設置する。

(2) 事務の継続性の確保

市警戒本部から市災害対策本部への移行に当たっては、事務の継続性の確保に配慮するものとする。

(3) 職員の動員（配備）

（共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 2 市職員の配備及び動員 に準ずる。）

(4) 市災害対策本部の所掌事務

ア 津波警報その他災害応急対策に必要な情報の収集及び伝達

イ 災害応急対策の実施又は民心安定上必要な広報

ウ 消防、水防その他の応急措置

エ 被災者の救助、救護、その他の保護

オ 施設及び設備の応急の復旧

カ 防疫その他の保健衛生

キ 避難指示又は警戒区域の設定

ク 緊急輸送の実施

ケ 被災者等に対する食料、飲料水及び日用品の確保、配給

コ 県への要請、報告等、県との災害応急対策の連携

サ 自主防災組織との連携及び指導

シ ボランティアの受け入れ

(5) 消防、水防機関の措置

市災害対策本部並びに関係機関と緊密に連携し、次の事項を行う。

ア 消防本部

(ア) 被害状況等の情報の収集と伝達

(イ) 消火・救急・救助活動

(ウ) 地域住民等への避難指示の伝達

イ 消防団、水防団

(ア) 被害状況等の情報の収集と伝達

(イ) 消火活動、水防活動及び救助活動

(ウ) 一次避難地の安全確保及び避難路の確保

(エ) 地域住民等の避難地への誘導

(オ) 危険区域からの避難の確認

(カ) 自主防災組織との連携、指導、支援

2 本部員会議

ア 市長(本部長)は、災害応急対策の基本方針等について協議するため、必要に応じて本部員会議を開催する。

《津波対策編》

第3章

- イ 本部員会議は、本部長、副本部長（副市長及び教育長）、本部員（各部局長）及び危機管理監をもって構成する。ただし、必要に応じて、関係者の出席を求めることができる。
- ウ 本部員等は、それぞれの所管業務に関する災害応急対策の実施状況について、必要に応じて、本部員会議に報告する。
- エ 本部長は、被害情報等の収集、災害応急対策の調整等を行うため、防災関係機関の長に対し、本部員会議への連絡員の派遣を要請することができる。

3 防災関係機関

防災関係機関は、災害応急対策として概ね次の措置を講ずるものとする。

(1) 指定地方行政機関

ア 警察庁関東管区警察局

- (ア) 管内各県警察の実施する災害警備活動の連絡調整
- (イ) 隣接管区警察局及び管内防災関係機関との連携
- (ウ) 警察通信施設の防護並びに通信統制
- (エ) 管内各県警察の相互援助の調整

イ 総務省東海総合通信局

電気通信及び放送の確保のための応急対策及び非常通信の監理

ウ 財務省東海財務局（静岡財務事務所）

- (ア) 被災者の資金需要状況等に応じ、適当と認められる機関又は団体との緊密な連絡をとりつつ、民間金融機関、保険会社及び証券会社等に対して、災害関係の融資、預貯金の払戻し及び中途解約、手形交換、休日営業等、保険金の支払い及び保険料の支払猶予等における対応等の業務に対して適時的確な措置を講ずるよう要請
- (イ) 地方公共団体において国有財産（普通財産）を災害応急対策の実施の用に供するときは、当該地方公共団体に対する無償貸付の適切な措置

エ 厚生労働省東海北陸厚生局

- (ア) 災害状況の情報収集、連絡調整
- (イ) 関係職員の派遣
- (ウ) 関係機関との連絡調整

オ 厚生労働省静岡労働局（三島労働基準監督署）

- (ア) 事業所等の被災状況の把握
- (イ) 大型二次災害発生のおそれのある事業所に対する災害防災の指導

カ 農林水産省関東農政局

- (ア) 農地・農業用施設及び公共土木施設の災害復旧に関すること
- (イ) 被害農業者に対する金融対策に関すること

キ 農林水産省関東農政局静岡県拠点

食料需給に関する情報収集及び災害時における関係機関、団体の被災状況の把握

ク 林野庁関東森林管理局（伊豆森林管理署）

市からの要請に対する災害復旧用材（国有林材）の供給

ケ 経済産業省関東経済産業局

- (ア) 防災関係物資の適正な価格による円滑な供給の確保
- (イ) 商工鉦業の事業者の業務の正常な運営の確保
- (ウ) 電気の安定供給に関すること（熱海市、沼津市、三島市、富士宮市（昭和31年9月29日における旧庵原郡内房村の区域を除く。）、伊東市、富士市（平成20年10月31日における旧庵原郡富士川町の区域を除く。）、御殿場市、裾野市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、田方郡、賀茂郡及び駿東郡）
- (エ) ガスの安定供給に関すること（磐田市、湖西市、浜松市（平成17年6月30日における旧周智郡春野町の区域を除く。）及び袋井市（平成17年3月31日における旧磐田郡浅羽町の区域に限る）を除く。)

コ 経済産業省関東東北産業保安監督部

- (ア) 火薬類、高圧ガス、液化石油ガスなどの安全確保に関すること

《津波対策編》

第3章

- (イ) 鉾山に関する災害防止及び災害時の応急対策に関すること
- (ウ) 電気の安全確保に関すること（熱海市、沼津市、三島市、富士宮市（昭和31年9月29日における旧庵原郡内房村の区域を除く。）、伊東市、富士市（平成20年10月31日における旧庵原郡富士川町の区域を除く。）、御殿場市、裾野市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、田方郡、賀茂郡及び駿東郡）
- (エ) ガスの安全確保に関すること（磐田市、湖西市、浜松市（平成17年6月30日における旧周智郡春野町の区域を除く。）及び袋井市（平成17年3月31日における旧磐田郡浅羽町の区域に限る。）を除く。）
- サ 国土交通省中部地方整備局（沼津河川国道事務所）
 - 管轄する河川、道路等について管理を行うほか次の事項を行うよう努める。
 - (ア) 施設対策等
 - ① 河川管理施設等の対策等
 - ② 道路施設対策等
 - ③ 港湾施設対策等
 - ④ 営繕施設対策等
 - ⑤ 電気通信施設対策等
 - (イ) 初動対応
 - 地方整備局災害対策本部等からの指示により、情報連絡員（リエゾン）及び緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等を派遣し、被災地方公共団体等が行う、被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する支援を行うとともに、緊急車両の通行を確保するため、関係機関と調整を図りつつ、道路啓開を実施する。
 - (ウ) 災害対策用建設機械等の出動及び管理
 - (エ) 他機関との協力
 - (オ) 広報
- シ 国土交通省中部運輸局
 - (ア) 陸上輸送に関すること
 - 緊急輸送の必要性があると認める場合は、自動車輸送事業者に対する輸送力の確保に関する措置
 - (イ) 海上輸送に関すること
 - ① 県内海上輸送事業者に対する緊急海上輸送の協力要請
 - ② 県内船舶が使用できない場合の他県に対する支援要請
- ス 国土地理院中部地方測量部
 - (ア) 災害に関する情報の収集及び伝達における地理空間情報の活用を図る。
 - (イ) 国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の活用を図る。
 - (ウ) 地理情報システムの活用を図る。
- セ 気象庁東京管区气象台（静岡地方气象台）
 - (ア) 大津波警報及び津波警報、津波注意報の通知、津波情報等の発表又は通報並びに解説
 - (イ) 異常気象（異常水位、潮位、地すべり、土地の隆起等）に関する情報が市長から通報された時、気象庁本庁への報告及び適切な措置
 - (ウ) 必要に応じて気象警報及び注意報等の発表基準の引き下げを実施するものとする。
 - (エ) 災害時の応急活動を支援するため、被災地を対象とした詳細な気象情報等の提供に努める。
- ソ 海上保安庁第三管区海上保安本部（下田海上保安部）
 - (ア) 在港船舶及び沿岸住民に対する津波警報等の伝達周知
 - (イ) 海難船舶等の海上における人命の安全確保
 - (ウ) 巡視船艇による主要港湾等の被害調査
 - (エ) 危険物搭載船及び在港船等の保安のための避難勧告、入港制限、移動命令、航行制限、荷役の中止勧告等海上交通の安全確保に必要な措置
 - (オ) 船舶交通安全のための水路の検測及び応急航路標識の設置
 - (カ) 海上における災害に係る救助・救急活動

《津波対策編》

第3章

- (キ) 船艇による沿岸周辺海域における治安の維持
- タ 環境省関東地方環境事務所
 - (ア) 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供
 - (イ) 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
 - (ウ) 行政機関等との連絡調整、被災状況・動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等
- チ 環境省中部地方環境事務所
 - 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
- テ 防衛省南関東防衛局
 - (ア) 所管財産使用に関する連絡調整
 - (イ) 災害時における防衛省本省及び自衛隊等との連絡調整
 - (ウ) 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援
- (2) 指定公共機関
 - ア 日本郵便株式会社東海支社（市内各郵便局）
 - (ア) 災害の態様及び公衆の被災状況等被災地の実情に応じ、郵便事業に係る災害特別事務取扱い及び救護対策の実施
 - ① 被災者に対する郵便はがき等の無償交付
 - ② 被災者が差し出す郵便物の料金免除
 - ③ 被災地あて救助用郵便物の料金免除
 - ④ 被災者救助団体に対するお年玉はがき等寄附金の配分
 - (イ) 災害の発生時又はそのおそれのある場合においては、可能な限り窓口業務を確保する。
そのため、警察、消防、その他の関係行政機関、ライフライン事業者、関連事業者並びに報道機関等と密接に連携し、迅速・適切な対応に努める。
 - イ 日本銀行
 - (ア) 通貨の円滑な供給の確保
 - (イ) 現金供給のための輸送、通信手段の確保
 - (ウ) 金融機関の業務運営の確保に係る措置
 - (エ) 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請
 - (オ) 各種措置に関する広報
 - ウ 日本赤十字社静岡県支部
 - (ア) 医療、助産、こころのケア及び遺体措置に関すること
 - (イ) 血液製剤の確保及び供給のための措置
 - (ウ) 被災者に対する救援物資の配布
 - (エ) 義援金の募集
 - (オ) 災害救助の協力奉仕者の連絡調整
 - (カ) その他必要な事項
 - エ 日本放送協会（静岡放送局）
 - (ア) 災害時の混乱防止、民心の安定及び災害の復旧に資するための有効適切な関連番組の編成
 - (イ) 被害状況、応急対策の措置状況、復旧の見込み等に関する迅速かつ的確な放送の実施
 - (ウ) 地方公共団体及び関係機関からの要請に基づく気象、地象に関する予報、警報、警告等の有効適切な放送
 - オ 西日本電信電話株式会社、株式会社NTTドコモ東海支社
 - (ア) 防災関係機関の重要通信の優先確保
 - (イ) 被害施設の早期復旧
 - (ウ) 災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板web171及び災害用伝言板、災害用音声お届けサービスの提供
 - カ 岩谷産業株式会社、アストモスエネルギー株式会社、株式会社ジャパングスエナジー、ENEOSグループ株式会社、ジクシス株式会社
 - LPガスタンクローリー等によるLPガス輸入基地、2次基地から充填所へのLPガスの配送
 - キ 日本通運株式会社（沼津支店）、福山通運株式会社、佐川急便株式会社、ヤマト運輸株式会社、

《津波対策編》

第3章

- 西濃運輸株式会社
緊急輸送車両の確保及び運行
- ク 東京電力パワーグリッド株式会社（伊豆支社）
（ア）発電所、変電所施設の被害状況の把握と防災関係機関への緊急事態の通報
（イ）施設及び設備の被害、復旧の状況、公衆感電防止及び漏電防止に関するラジオ、テレビ等を利用しての広報
- ケ 電源開発株式会社、電源開発送変電ネットワーク株式会社
（ア）発電所、変電所施設の被害状況の把握と防災関係機関への緊急事態の通報
（イ）施設及び設備の被害、復旧の状況、公衆感電防止及び漏電防止に関するラジオ、テレビ等を利用しての広報
- コ KDDI株式会社（沼津支店）、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社
重要な通信を確保するために必要な措置の実施
- サ 一般社団法人日本建設業連合会中部支部、一般社団法人全国中小建設業協会
公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
- (3) 指定地方公共機関
- ア 一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、公益社団法人静岡県看護協会、公益社団法人静岡県病院協会
（ア）医療救護施設等における医療救護活動の実施
（イ）検案（公益社団法人静岡県薬剤師会、公益社団法人静岡県看護協会及び公益社団法人静岡県病院協会を除く。）
（ウ）災害時の口腔ケアの実施（一般社団法人静岡県歯科医師会）
- イ 一般社団法人静岡県LPガス協会（東部支部）（伊豆市LPガス事業協同組合）
（ア）需要家へのガス栓の閉止等の広報
（イ）必要に応じた代替燃料の供給の協力
- ウ 静岡県道路公社
（ア）交通状況に関する関係防災機関との情報連絡
（イ）緊急輸送路確保のための応急復旧
（ウ）県公安委員会が行う緊急交通路確保に関する交通規制への協力
（エ）津波発生時に消防機関が行う消火活動、救助活動への協力
- エ 伊豆箱根鉄道株式会社
災害発生時の防衛及び災害の拡大防止のための緊急措置の実施
- オ 静岡放送株式会社（沼津支社）、株式会社テレビ静岡（沼津支社）、株式会社静岡朝日テレビ（東部支社）、株式会社静岡第一テレビ（東部支局）、静岡エフエム放送株式会社、株式会社FMIS
あらかじめ市と締結した災害時における放送要請に関する協定に基づく放送
- カ 一般社団法人静岡県トラック協会（東部支部）
協会加盟事業所からの緊急輸送車両等の確保
- キ 一般社団法人静岡県建設業協会
道路施設等の被害調査、復旧に関する協力
- ク 公益社団法人静岡県栄養士会
（ア）要配慮者等への食料品の供給に関する協力
（イ）避難所における健康相談に関する協力
- ケ 富士山静岡空港株式会社
大規模な広域防災拠点としての応援部隊等の受入支援

第2節 情報活動

情報の収集伝達を迅速かつ的確に実施するため、県、市及び防災関係機関の連携の強化による情報の一元化を図ることを基本として、情報の収集及び伝達体制の整備を推進することを目的とする。詳細については、共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第4節 通信情報計画 に準ずる。

《津波対策編》

第3章

なお、南海トラフ地震臨時情報発表時における情報の収集及び伝達体制については、地震対策編 第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応 を参照のこと。

1 津波情報等の種類

(1) 大津波警報、津波警報、津波注意報の発表等

- 気象庁は、地震が発生した時は地震の規模や位置を即時に推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、津波による災害の発生が予想される場合には、地震が発生してから約3分を目標に大津波警報、津波警報または津波注意報（以下これらを「津波警報等」という）を発表する。なお、大津波警報については、津波特別警報に位置づけられる。
- 津波警報等とともに発表する予想される津波の高さは、通常は数値で発表する。
- 地震の規模（マグニチュード）が8を超えるような巨大地震は地震の規模を数分以内に精度よく推定することが困難であることから、推定した地震の規模が過小に見積もられるおそれがある場合は、予想される津波の高さを定性的な表現で発表する。
この場合は、地震発生からおよそ15分程度で求められる、精度の良い地震規模（モーメントマグニチュード）をもとに、予想される津波の高さを数値で示した更新報を発表する。

ア 津波警報等の種類と発表される津波の高さ等

津波警報等の種類	発表基準	津波の高さ予想の区分	発表される津波の高さ		津波警報等を見聞きした場合にとるべき行動
			数値での発表	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m<高さ	10m超	巨大	陸域に津波が浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		5m<高さ≤10m	10m		
		3m<高さ≤5m	5m		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	1m<高さ≤3m	3m	高い	
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	0.2m≤高さ≤1m	1m	(表記なし)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行なわない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

注)「津波の高さ」とは、津波によって潮位が高くなった時点における潮位と、その時点で津波がなかったとした場合の潮位の差であって、津波によって潮位が上昇した高さをいう。

イ 津波警報等の留意事項

- 沿岸に近い海域で大きな地震が発生した場合、津波警報等の発表が津波の襲来に間に合わない場合がある。

《津波対策編》

第3章

- 津波警報等は、最新の地震・津波データの解析結果に基づき、内容を更新する場合がある。
- 津波による災害のおそれなくなったと認められる場合、津波警報等の解除を行なう。このうち、津波の観測状況等により、津波がさらに高くなる可能性は小さいと判断した場合には、津波の高さが津波注意報の発表基準未満となる前に、海面変動が継続することや留意事項を付して解除を行なう場合がある。

(2) 津波予報区

日本の沿岸は66の津波予報区に分けられている。そのうち、静岡県が属する津波予報区は、以下のとおりである。

静岡県が属する津波予報区

津波予報区	区域	津波警報等を発表する官署
静岡県	静岡県	気象庁



第1図 静岡県及び周辺の県が属する津波予報区

(3) 津波情報の発表等

気象庁は、津波警報等を発表した場合には、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを津波情報で発表する。

ア 津波情報の種類と発表内容

情報の種類	発表内容
津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報	各津波予報区の津波の到達予想時刻や予想される津波の高さを5段階の数値（メートル単位）または2種類の定性的表現で発表 [発表される津波の高さの値は、「津波警報等の種類と発表される津波の高さ等」参照]
各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報	主な地点の満潮時刻や津波の到達予想時刻を発表
津波観測に関する情報	沿岸で観測した津波の時刻や高さを発表（※1）
沖合の津波観測に関する情報	沖合で観測した津波の時刻や高さ、及び沖合の観測値から推定される沿岸での津波の到達時刻や高さを津波予報区単位で発表（※2）

《津波対策編》

第3章

津波に関するその他の情報	津波に関するその他の必要な事項を発表
--------------	--------------------

※1 津波観測に関する情報の発表内容

- 沿岸で観測された津波の第1波の到達時刻と押し引き、及びその時点における最大波の観測時刻と高さを発表する。
- 最大波の観測値については、観測された津波の高さが低い段階で数値を発表することにより避難を鈍らせるおそれがあるため、当該津波予報区において大津波警報または津波警報が発表中であり観測された津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。

イ 最大波の観測値の発表内容

発表中の津波警報等	発表基準	発表内容
大津波警報	観測された津波の高さ > 1 m	数値で発表
	観測された津波の高さ ≤ 1 m	「観測中」と発表
津波警報	観測された津波の高さ ≥ 0.2m	数値で発表
	観測された津波の高さ < 0.2m	「観測中」と発表
津波注意報	(すべて数値で発表)	数値で発表 (津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現)

※2 沖合の津波観測に関する情報の発表内容

- 沖合で観測された津波の第1波の観測時刻と押し引き、その時点における最大波の観測時刻と高さを観測点ごとに、及びこれら沖合の観測値から推定される沿岸での推定値 (第1波の到達時刻、最大波の到達時刻と高さ) を津波予報区単位で発表する。
- 最大波の観測値及び推定値については、観測された津波の高さや推定される津波の高さが低い段階で数値を発表することにより避難を鈍らせるおそれがあるため、当該津波予報区において大津波警報または津波警報が発表中であり沿岸で推定される津波の高さが低い間は、数値ではなく「観測中」(沖合での観測値) または「推定中」(沿岸での推定値) の言葉で発表して、津波が到達中であることを伝える。
- ただし、沿岸からの距離が 100km を超えるような沖合の観測点では、予報区との対応付けが困難となるため、沿岸での推定値は発表しない。また、観測値についても、より沿岸に近く予報区との対応付けができていない他の観測点で観測値や推定値が数値で発表されるまでは「観測中」と発表する。

ウ 最大波の観測値及び推定値の発表内容 (沿岸から 100km 程度以内にある沖合の観測点)

発表中の津波警報等	発表基準	発表内容
大津波警報	沿岸で推定される津波の高さ > 3 m	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	沿岸で推定される津波の高さ ≤ 3 m	沖合での観測値を「観測中」、沿岸での推定値は「推定中」と発表
津波警報	沿岸で推定される津波の高さ > 1 m	沖合での観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	沿岸で推定される津波の高さ ≤ 1 m	沖合での観測値を「観測中」、沿岸での推定値は「推定中」と発表
津波注意報	(すべて数値で発表)	数値で発表 (津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現)

エ 津波情報の留意事項等

(ア) 津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報

- 津波到達予想時刻は、津波予報区の中なかで最も早く津波が到達する時刻である。同じ予報区の中なかでも場所によっては、この時刻よりも数十分、場合によっては1時間以上遅れて津波が襲ってくることもある。

《津波対策編》

第3章

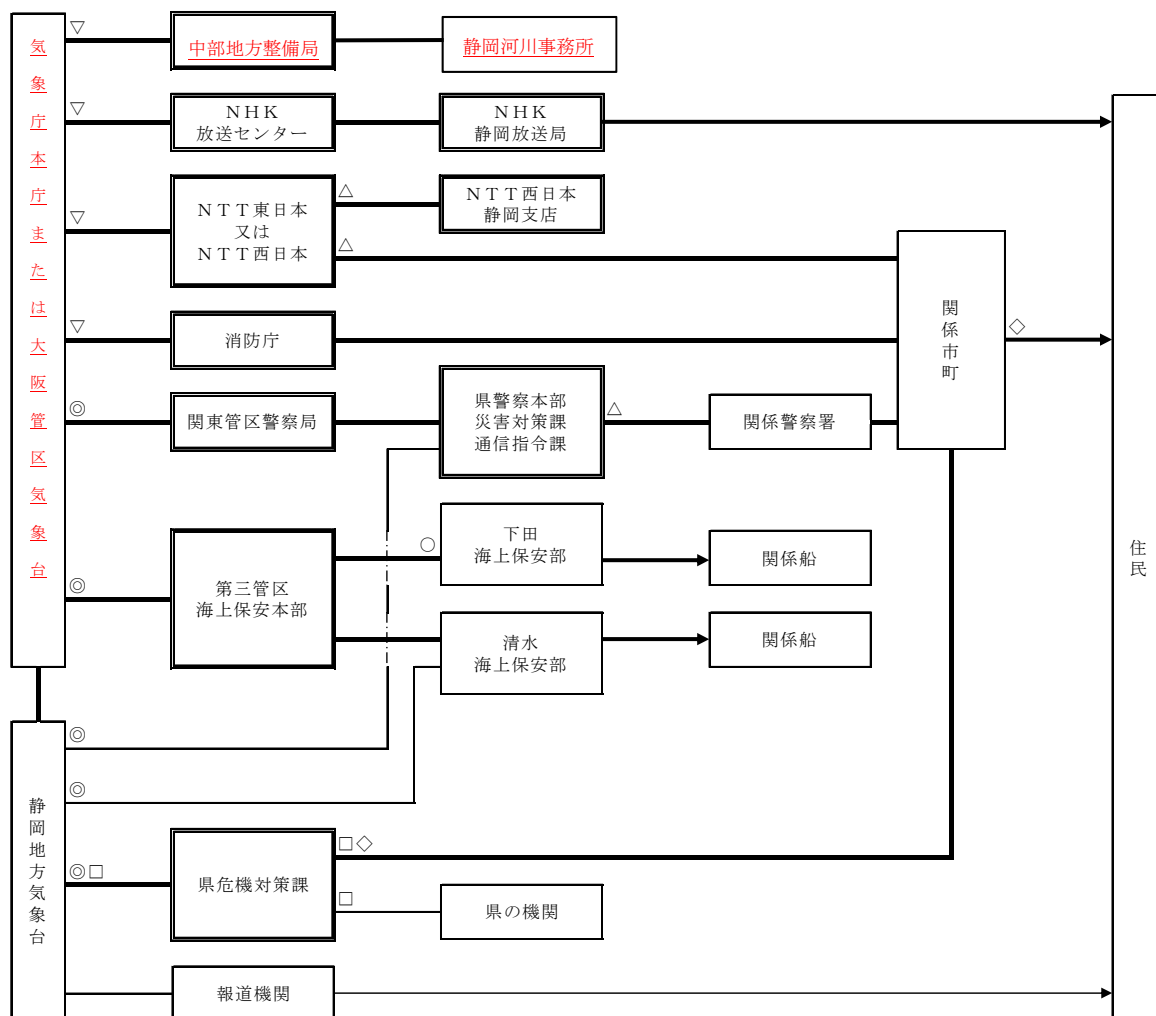
- ・ 津波の高さは、一般的に地形の影響等のため場所によって大きく異なることから、局所的に予想される津波の高さより高くなる場合がある。
- (イ) 各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報
 - ・ 津波と満潮が重なると、潮位の高い状態に津波が重なり、被害がより大きくなる場合がある。
- (ウ) 津波観測に関する情報
 - ・ 津波による潮位変化（第1波の到達）が観測されてから最大波が観測されるまでに数時間以上かかることがある。
 - ・ 場所によっては、検潮所で観測した津波の高さよりもさらに大きな津波が到達しているおそれがある。
- (エ) 沖合の津波観測に関する情報
 - ・ 津波の高さは、沖合での観測値に比べ、沿岸ではさらに高くなる。
 - ・ 津波は非常に早く伝わり、「沖合の津波観測に関する情報」が発表されてから沿岸に到着するまで5分とかからない場合もある。また、地震の発生場所によっては、情報の発表が津波の到達に間に合わない場合もある。
- (4) 津波予報

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合には、以下の内容を津波予報で発表する。

津波予報の発表基準と発表内容

発表基準	発表内容
津波が予想されないとき（地震情報に含めて発表）	津波の心配なしの旨を発表
0.2m未満の海面変動が予想されるとき（津波に関するその他の情報に含めて発表）	高いところで0.2m未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応が必要ない旨を発表
津波警報等の解除後も海面変動が継続するとき（津波に関するその他の情報に含めて発表）	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入っの作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表


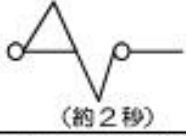

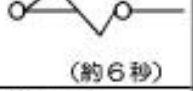
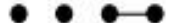
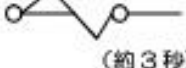


2 津波情報等の伝達系統図



- 法令（気象業務法等）による通知系統
- 地域防災計画、行政協定における伝達系統
- ◎防災情報提供システム
- 専用電話・FAX
- △加入電話・FAX
- ▽オンライン（アデス経由）
- 県防災行政無線
- ◇市町村防災行政無線
- 法令により、気象官署から警報事項を通知する機関

注) 特別警報が発表された際に、県から市町への通知、及び市町から住民への周知の措置が義務付けられている。

《津波対策編》
第3章

津波注意報標識			津波警報標識		
標識の種類	標 識		標識の種類	標 識	
	鐘 音	サイレン音		鐘 音	サイレン音
津波注意報標識	(3点と2点との斑打) 	(約10秒)  (約2秒)	津波警報標識	(2点) 	(約5秒)  (約6秒)
津波注意報及び津波警報解除標識	(1点2個と2点との斑打) 	(約10秒)(約1分)  (約3秒)	大津波警報標識	(連点) 	(約3秒)  (約2秒)(短声連点)

(注) 1 「津波無し」の津波注意報を行った場合は、
標識を用いない。

2 鳴鐘又は吹鳴の反復は、適宜とする。

(注) 鳴鐘又は吹鳴の反復は、適宜とする。

第3節 広報活動

(共通対策の巻 第3章災害応急対策計画 第5節「災害広報計画」に準ずる。)

第4節 災害の拡大防止活動

災害の拡大を防止するため水防活動及び人命の救出活動について、県、市町、自主防災組織並びに県民が実施すべき事項を示す。

1 水防活動

津波に対する水防活動の概要を示す。

なお、水防活動のための水防組織並びに水防活動の具体的内容については、県及び市の水防計画の定めるところによる。

(1) 水防管理者及び水防管理団体の活動

ア 津波の襲来が予想され、著しい危険が切迫していると認められるときは、市長の命を受けた職員又は水防管理者は、必要とする区域の居住者に対し避難の呼びかけを行う。なお、呼びかけを行った旨を大仁警察署長に通知する。

イ 水防管理者及び水防団長（消防団長）は、水防上危険な箇所を発見したときは、直ちに関係機関及び当該施設の管理者に連絡し、必要な措置を要請し、緊急を要する場合は、水防団員等の安全を確保した上で必要な措置を行い、被害が拡大しないよう努める。

ウ 河川、ため池、水門、樋門等の管理者は、被害状況を把握し、直ちに関係機関に通報するとともに必要な応急措置を講ずるものとする。

(2) 水防活動の応援要請

ア 水防管理者は、相互に協力するとともに、必要に応じ応援を要請する。

(ア) 水防管理者は、水防上必要があるときは、あらかじめ相互に協定した隣接水防管理者に対し、応援を要請する。

(イ) 水防管理者は、必要があれば市長に対して応援を求める。

(ウ) 水防管理者は、水防のために必要があるときは、警察署長に対して、警察官の出動を要請

《津波対策編》

第3章

する。

イ 市長は、必要があるときは次の事項を示し、自衛隊の派遣要請を要求する。

- (ア) 応援を必要とする理由
- (イ) 応援を必要とする人員、資機材等
- (ウ) 応援を必要とする場所
- (エ) 期間その他応援に必要な事項

ウ 水防区長は、管轄区域の相互応援についての調整を行うとともに必要に応じ自衛隊及び警察官の出動を水防本部に要請する。

2 人命の救出活動

(1) 人命救出活動の基本方針

ア 救出を必要とする負傷者等（以下「負傷者等」という。）に対する救出活動は、市長が行うことを原則とする。

イ 県、県警察及び自衛隊は、市長が行う救出活動に協力する。

ウ 県は、救出活動に関する応援について、市町間の総合調整を行う。

エ 市長は、市内における関係機関による救出活動について総合調整を行う。

オ 自主防災組織、事業所等及び住民は、地域における相互扶助による救出活動を行う。

カ 自衛隊の救出活動は〈第6節 広域応援活動〉の定めるところによる。

(2) 伊豆市

ア 職員を動員し負傷者等を救出する。

イ 市長は、自ら負傷者等の救出活動を実施することが困難な場合、次の事項を示して知事に対し救出活動の実施を要請する。また、必要に応じ民間団体の協力を求める。

- (ア) 応援を必要とする理由
- (イ) 応援を必要とする人員、資機材等
- (ウ) 応援を必要とする場所
- (エ) 応援を必要とする期間
- (オ) その他周囲の状況等応援に関する必要事項

(3) 自主防災組織、事業所等

自主防災組織及び事業所の防災組織は、次により自主的に救出活動を行うものとする。

ア 組織内の被害状況を調査し、負傷者等の早期発見に努める。

イ 救出活動用資機材を活用し、組織的救助活動に努める。

ウ 自主防災組織と事業所の防災組織は、相互に連携をとって地域における救出活動を行う。

エ 自主救出活動が困難な場合は、消防機関又は警察に連絡し早期救出を図る。

オ 救出活動を行うときは、可能な限り市、消防機関、警察、海上保安部と連絡を取り、その指導を受けるものとする。

第5節 避難活動

津波災害が発生したときの避難対策及び避難生活の基本となる事項を示す。

1 避難対策

基本方針	<p>(1) 津波災害発生時においては、要避難地区の住民等は、的確に状況を把握し、安全で効率的な避難活動を行う必要がある。また、危険予想地域外においても、建物倒壊その他の要因により、避難が必要となる場合がある。このため、市は適切な措置を講じ、住民等の生命、身体の安全確保に努める。</p> <p>(2) 情報提供、避難誘導及び避難所の運営に当たっては、要配慮者等に配慮するものとする。</p> <p>(3) 避難対策の周知に当たっては、住民においては、避難の際は、自らの身の安全を確保しつつ、可能な限り出火防止措置を施すとともに、地域の防災活動に参加することを啓発するものとする。</p>
------	--

《津波対策編》

第3章

(資料編3-5-1「伊豆市津波避難計画」)

(1) 情報・広報活動

- 市及び防災関係機関は、津波に関する情報の収集及び伝達を的確に行い、その内容は「第2節 情報活動」に準ずる。
- 市及び防災関係機関は、津波に関する情報を的確に住民に広報し、その内容は「第3節 広報活動」に準ずる。また、自主防災組織等の協力を得て、要配慮者への的確な情報提供に配慮する。
- 住民は、適切な避難行動のため、同時通報用無線、ラジオ、テレビ等を通じ、可能な限り津波に関する情報を入手するよう努める。

(2) 避難のための指示

ア 避難指示の基準

- (ア) 市長は、津波による災害が発生するおそれがあり、住民等の生命及び身体を保護するため必要があるときは、必要と認める地域の住民等に対し避難指示を発令する。
- (イ) 警察官又は海上保安官は、市長が避難の指示をすることができないと認めるとき又は市長から要請のあったときは、住民等に対して避難の指示をする。この場合、警察官又は海上保安官は直ちに避難の指示をした旨を市長に通知する。
- (ウ) 知事は、災害の発生により市長がその事務の全部又は大部分の事務を行うことができなくなったときは、市長に代わって避難指示の発令（以下、「指示」という。）をする。この場合、知事は、その旨を公示する。
- (エ) 災害派遣を命じられた部隊等の自衛官は、災害の状況により特に急を要する場合で、警察官又は海上保安官がその場にいない場合に限り、危険が切迫している住民等に対して、避難の措置を講ずる。この場合、自衛官は、直ちに避難の措置を講じた旨を防衛大臣の指定する者に報告する。

イ 指示の内容

避難指示等を行う際は、次に掲げる事項を伝達し、避難行動の迅速化と安全を図る。

- (ア) 避難の指示が出された地域名
- (イ) 避難路及び避難先
- (ウ) 避難時の服装、携行品
- (エ) 避難行動における注意事項

ウ 指示の伝達方法

市長又は知事は、避難の指示をしたときは、直ちに指示が出された地域の住民に対して、同時通報用無線等により放送するほか、警察官、海上保安官、自主防災組織等の協力を得て伝達し、その旨の周知徹底を図る。

(3) 津波からの避難対策

津波による被害を防止、軽減するため、次の措置をとる。

ア 市が実施する自衛措置

(ア) 津波注意報が発表された場合

- ① 安全を確保の上、海面の監視及び情報収集を行い、被害を伴う津波の発生が予想されるときは、市長は住民に対して避難指示を伝達するなどの必要な措置をとる。なお、市長が行う避難指示については、「1 避難対策」の「(2) 避難のための指示等に準ずる。
- ② 住民、漁業・港湾関係者等に津波注意報を適切な手段により迅速に伝達し、ラジオ及びテレビによる報道並びに市が広報する情報に注意するよう呼びかける。
- ③ 海水浴客、釣人及びサーファー等（以下「海水浴客等」という。）に対し、避難指示の伝達に努める。

(イ) 津波警報が発表された場合

市長は、直ちに住民、漁業・港湾関係者等及び海水浴客等に対して、あらゆる手段をもって緊急に避難指示を伝達するなどの必要な措置をとる。

(ウ) 震度6弱以上の強い揺れを感じた場合

市長は、直ちに要避難地区にある住民、海水浴客等に対して、避難指示を伝達するなどの必要な措置をとる。

《津波対策編》

第3章

- (エ) 津波注意報又は津波警報は発表されていないが、震度4程度以上の強い揺れを感じた場合又は弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた場合
 - ① 海面の監視
 - 気象官署から津波警報・注意報並びに津波予報が届くまでの間、少なくとも30分間は、安全を確保の上、海面の状態を監視するものとする。
 - ② 報道の聴取
 - 揺れを感じてから少なくとも1時間は、ラジオ及びテレビによる当該地震又は津波に関する報道を聴取するものとする。
 - ③ 避難の指示等
 - 海面の監視、報道の聴取により、被害を伴う津波の発生が予想される時は、市長は住民、海水浴客等に対して避難指示を伝達するなどの必要な措置をとる。
- (オ) 遠地津波が発生した場合
 - ① 気象庁から発表される津波到達予想時間・予想される津波の高さに関する情報などの津波情報に注視し、情報収集や警戒体制の確立、海面の監視などの必要な措置をとる。
 - ② 津波注意報または津波警報が発令された場合には、上記の必要な措置をとる。
 - ③ 住民、漁業・港湾関係者、海水浴客等に対して、遠地津波の特性（最大波が第1波のかなり後に襲来することがある、津波の継続時間が長いなど）を周知し、避難等の必要な措置に万全を期す。
- イ 住民等が実施する自衛措置
 - (ア) 海浜付近の住民及び海水浴客等は、強い揺れを感じた場合又は弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じた場合、避難指示を受けるまでもなく、直ちに海浜から離れ、高台、避難地等の安全な場所に避難する。また、強い揺れを感じなかった場合でも、津波警報が発表されたときは、同様に直ちに安全な場所に避難するものとする。
 - (イ) 海水浴客等は、上記の他、津波注意報が発表された場合にも直ちに海浜付近から離れるものとする。
- (4) 警戒区域の設定
 - ア 設定の基準
 - (ア) 市長は、災害が発生し又はまさに発生しようとしている場合において、住民等の生命、身体に対する危険を防止するため特に必要があると認めるときは、警戒区域を設定する。
 - (イ) 警察官又は海上保安官は、市長（権限の委任を受けた市の職員を含む。）が現場にいないとき又は市長から要請があったときは、警戒区域を設定する。この場合、警察官又は海上保安官は直ちにその旨を市長に通知する。
 - (ウ) 知事は、災害の発生により市長が警戒区域を設定することができなくなったときは、市長に代わって警戒区域を設定する。この場合、知事はその旨を公示する。
 - (エ) 災害派遣を命じられた部隊等の自衛官は、市長（権限の委託を受けた市職員を含む。）、警察官又は海上保安官がその場にいない場合に限り、警戒区域を設定する。この場合、その自衛官は直ちにその旨を市長に通知する。
 - イ 規制の内容及び実施方法
 - (ア) 市長、警察官、海上保安官、知事又は自衛官は、警戒区域を設定したときは、退去又は立ち入り禁止の措置を講ずる。
 - (イ) 市長、警察官及び海上保安官は協力し、住民等の退去の確認を行うとともに、可能な限り防犯・防火のためのパトロールを実施する。
- (5) 避難方法等
 - ア 避難地への市職員等の配置
 - 市が設定した避難地には、避難誘導、情報伝達、応急救護のために市職員（消防職員、消防団員を含む。）を配置する。また、必要により市職員は警察官の配置を要請する。
 - イ 避難の方法
 - 災害の状況により異なるが、徒歩による避難を原則として、以下の方法により避難する。
 - (ア) 要避難地区の住民は、直ちに津波危険予想地域外の安全な場所へ避難する。
 - (イ) 上記避難を行うための十分な時間がない場合には、最寄の津波避難施設（津波避難ビル、

《津波対策編》

第3章

津波避難タワー、人工高台（津波避難マウント）等へ避難する。

(ウ) 要避難地区以外の住民であっても、災害が拡大し危険が予想される場合は、出火防止措置をとった後、自宅周辺の安全な場所等へ自主的に避難する。

ウ 幹線避難路の確保

市は、職員の派遣及び警察官・自主防災組織等の協力により幹線避難路上にある障害物の排除に努め、避難の円滑化を図るものとする。

エ 避難地における業務

(ア) 要請等により避難地に派遣された市職員等は、自主防災組織等の協力を得て次の事項を実施する。

- ① 津波等の危険の状況に関する情報の収集
- ② 津波等に関する情報の伝達
- ③ 避難者の把握（避難者数、避難者氏名、性別、年齢、住所、連絡先等）
- ④ 必要な応急救護
- ⑤ 状況に応じ、避難者への帰宅の指示、保護者への引き渡し又は避難所への移動

(イ) 市が設定した避難地を所有し又は管理する者は、避難地の開設及び避難者に対する応急救護に協力するものとする。

(ウ) 食事のみを受け取りに来ている被災者等に係る情報の把握に努め、国等へ報告を行うものとする。

オ 避難状況の報告

(ア) 市は、自主防災組織及び避難地の施設管理者等から直接に、又は大仁警察署を通じて次に掲げる避難状況の報告を求める。

ただし、要避難地区以外の地域にあつては、原則として、次の（イ）に関する報告を求めないものとする。

- ① 避難の経過に関する報告…危険な事態その他異常な事態が発生した場合、直ちに行う。
 - ・ 避難に伴い発生した危険な事態、その他異常な事態の状況（場所、人員を含む）
 - ・ 上記事態に対し、応急的にとられた措置
 - ・ 市等に対する要請事項
- ② 避難の完了に関する報告…避難完了後、速やかに行う。
 - ・ 避難地名
 - ・ 避難者数
 - ・ 必要な救助、保護の内容
 - ・ 市等に対する要請事項

(イ) 市は、避難状況について県へ報告する。

2 避難所の設置及び避難生活

基本方針	<p>(1) 市は、避難を必要とする被災者の救助のために避難所を設置するとともに、避難所ごとにあらかじめ定めた運営体制等に沿って円滑な避難生活が行われるように、自主防災組織及び避難所の学校等施設の管理者の協力を得て必要最低限の避難生活を確保するために必要な措置を講ずる。</p> <p>(2) 避難所の運営に当たっては、避難所ごとに予め定めたルールやマニュアル、市の「避難所運営マニュアル」や「避難所生活の手引き」・「避難場運営マニュアル」（静岡県）、「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（内閣府）等を参考として、要配慮者及び居室・トイレ等の衛生環境の保持に配慮するものとする。</p>
------	---

(1) 避難所の設置及び避難生活

ア 避難生活者

避難所で避難生活をする者は、災害によって現に被害を受け、又は受けるおそれのある者で居住する場所を確保できない者とする。

イ 設置場所

《津波対策編》

第3章

- (ア) 津波などの危険のない地域に設置する。
- (イ) 避難所の設置に当たっては、避難所の被害状況及び安全性を確認のうえ、避難生活者の人数に応じて次の順位により設置する。
 - ・ 学校、体育館、公民館等の公共建築物
 - ・ あらかじめ協定した民間の建築物
 - ・ 指定避難地、一次避難地等に設置する小屋又はテント等（自主防災組織等が設置するものを含む。）
- (ウ) 障害のある人、高齢者、乳幼児等については、その状況に応じて避難するための社会福祉施設等を事前に指定し確保する。
- (エ) 状況に応じ、公的宿泊施設、民間宿泊施設、ゴルフ場施設等を確保する。
- (オ) 状況に応じ、船舶を宿泊施設として活用する。その場合は、県を経由して中部運輸局静岡運輸支局に船舶のあっせんを要請する。
- (カ) 避難所のライフラインの回復に時間を要すると見込まれる場合や道路の途絶による孤立が続くと見込まれる場合は当該地域の避難所を維持することの適否を検討するものとする。

ウ 福祉避難所

- (ア) 市は、一般の避難所では生活することが困難な要配慮者を受け入れるため、社会福祉施設等を福祉避難所として指定し、公示するものとする。
- (イ) 市は、要配慮者の要配慮特性に応じ、すべての要配慮者を受け入れることができるよう、福祉避難所を確保するものとする。
- (ウ) 市は、福祉避難所の円滑な運営を行うため、「市町福祉避難所設置・運営マニュアル（県モデル）」に基づいた「市福祉避難所設置・運営マニュアル」を整備するとともに、定期的に要配慮者の避難支援対策に関する訓練を実施するものとする。
- (エ) 市は、災害発生時において円滑に福祉避難所が設置・運営できるよう、自主防災組織、地域住民、関係団体、要配慮者及びその家族に対して、要配慮者の避難支援対策、福祉避難所の目的やルール等を周知するものとする。
- (オ) 市は、災害発生時に福祉避難所の設置・運営に必要な物資・器材や運営人材の確保がなされるよう、指定先の社会福祉施設や関係団体・事業者等との間で事前に調整し、覚書等を交わすものとする。

エ 設置期間

市長は、津波情報等による災害発生の危険、住宅の応急修理の状況及び応急仮設住宅の建築状況等を勘案し、県と協議して設置期間を決める。

オ 避難所の運営

- (ア) 市は、自主防災組織及び避難所の学校等施設の管理者の協力を得て避難所を運営する。
- (イ) 避難所には避難所等の運営を行うために必要な市職員を配置する。また避難所の安全の確保と秩序の維持のため、必要により警察官の配置を要請する。
- (ウ) 避難所での避難生活の運営に当たっては女性の参画の推進を図るとともに、災害時要援護者、男女のニーズの違い等男女双方の視点、プライバシーの確保等に配慮するものとする。
- (エ) 自主防災組織は、避難所の運営に関して市に協力するとともに、役割分担を確立し、相互扶助の精神により自主的に秩序ある避難生活を送るよう努める。
- (オ) 運営が軌道に乗り次第、市、自主防災組織及び避難所の施設管理者中心の運営から、避難所利用者中心の体制に切り替える。市、自主防災組織及び避難所の施設管理者は運営をサポートする。
- (カ) 市は、援助が必要な者の保健福祉に対する要望を把握し、保健福祉サービスの提供に努めるとともに、この内、避難生活が困難な者の社会福祉施設等への移送に努める。
- (キ) 生活環境の激変に伴い被災者が心身双方の健康に不調を来す可能性が高いため、常に良好な衛生状態を保つよう努めるとともに、健康状態を十分把握し、必要に応じ救護所等の設置や心のケアを含めた対策を行うものとする。

カ その他

- (ア) 災害救助法に基づく市の実施事項は、「共通対策編」による。
- (イ) 県管理施設の避難所としての利用については、「共通対策の巻」による。

第6節 広域応援活動

広域激甚な災害に対応するため、県、他の市町、自衛隊等に対する応援要請の概要を示す。
なお、南海トラフ地震発生時における広域応援の受入は、別に定める「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による。

1 伊豆市の行う活動

(1) 知事等に対する応援要請等

市長は、市の災害応急対策を実施するため必要があると認めるときは、県に対し次の事項を示して応援を求め、又は災害応急対策の実施を要請する。

- ア 応援を必要とする理由
- イ 応援を必要とする人員、装備、資機材等
- ウ 応援を必要とする場所
- エ 応援を必要とする期間
- オ その他応援に関し必要な事項

(2) 他の市町長に対する応援要請

市長は、市の地域に係る災害応急対策を実施するため、必要があると認めるときは、あらかじめ災害時の広域応援に関する協定を締結した他の市町長に対し応援を求めるものとする。また、「消防組織法」第39条に基づき締結された「静岡県消防相互応援協定」に基づき、協定している他の市町長に対し応援を求めるものとする。

(3) 応援要員の受入れ体制

防災関係機関が災害応急対策を実施するに際して、各機関が県外から必要な応援要員を導入した場合、知事及び派遣先の市町長はこれらの要員のための宿泊施設等について、各機関の要請に応じて、可能な限り準備する。

2 自衛隊の支援

市長は、災害応急対策を円滑に実施するため、必要があるときは、知事に対し自衛隊の派遣に必要な措置を講ずるよう要求する。

(1) 派遣要請の要求事項

- ア 車両、航空機等状況に適した手段による被害状況の把握
- イ 避難者の誘導、輸送等避難のための必要があるときの援助
- ウ 行方不明者、負傷者等が発生した場合の捜索援助
- エ 堤防、護岸等の決壊に対する水防活動
- オ 火災に対し、消防機関に協力しての消火活動
- カ 道路又は水路の確保の措置
- キ 被災者に対する応急医療、救護及び防疫
- ク 救急患者、医師その他救助活動に必要な人員及び救援物資の緊急輸送
- ケ 被災者に対する炊飯及び給水支援
- コ 防災要員等の輸送
- サ 連絡幹部の派遣
- シ その他市長が必要と認める事項

(2) 派遣要請の要求手続き

知事に対する要求は、県災害対策本部東部方面本部長を経由し、下記のアからエの事項を明示した要請書により、自衛隊の派遣要請を行うよう要求する。

- ア 災害の情况及び派遣を要請する理由
- イ 派遣を希望する機関
- ウ 派遣を希望する区域及び活動内容
- エ その他参考となるべき事項

ただし、緊急を要するときは、県防災行政無線等又は口頭をもって行い、事後速やかに文書

により要求する。

また、知事への要求ができない場合は、その旨及び市内に関わる災害の状況を陸上自衛隊第34普通科連隊長又は最寄りの部隊長に通知し、知事に対してもその旨を速やかに通知する。

(3) 災害派遣部隊の受入れ体制

ア 市は、自衛隊の活動が他の機関の活動と競合重複しないよう効率的な作業分担を定める。

イ 市長は、自衛隊の作業の円滑な促進を図るため、可能な限り総合的な調整のとれた作業計画を作成し、資機材の準備及び関係者の協力を求め支援活動に支障のないよう措置を講ずる。

ウ 市長は、派遣された自衛隊の宿泊施設等必要な設備を可能な限り準備する。

(4) 災害派遣部隊の撤収要求

市長は、県災害対策本部東部方面本部長及び派遣部隊の長並びに自衛隊連絡班と協議し、派遣の必要がなくなったと認められる場合は、知事に対して派遣部隊の撤収を要求する。

(5) 経費の負担区分

自衛隊が災害応急対策又は災害復旧活動を実施するために必要な資機材、宿泊施設等の借上料及び光熱水費、通信運搬費、消耗品等は、原則として市が負担する。

3 海上保安庁の支援

市長は、海上保安庁の支援を必要とするときは、支援を要請する事項等を明らかにして、県災害対策本部東部方面本部長を経由して、知事に当該支援の要請を要求する。

(1) 支援要請事項

ア 傷病者、医師、避難者等又は救援物資等の緊急輸送

イ 巡視船を活用した医療活動場所及び災害応急対策従事者への宿泊場所の提供

ウ その他、市が行う災害応急対策の支援

(2) 市長の支援要請の依頼手続き

市長は、災害応急対策を円滑に実施するため、必要があるときは知事に対して、下記のアからエの事項を明示した要請書により、海上保安庁へ支援要請を行うよう依頼する。

ただし、緊急を要するときは、県防災行政無線等又は口頭をもって行い、事後速やかに文書により要請する。

また、知事への依頼ができない場合には、直接、最寄の海上保安庁の事務所又は沖合いに配備された海上保安庁の巡視船艇もしくは航空機を通じて要請するものとし、知事に対してもその旨を速やかに連絡する。

ア 災害の状況及び支援活動を要請する理由

イ 支援活動を必要とする期間

ウ 支援活動を必要とする区域及び活動内容

エ その他参考となるべき事項

第7節 地域への救援活動

日常生活に支障をきたした、り災者等に対して行う防疫活動について、県、市、自主防災組織、市民等が実施する対策を示す。

1 伊豆市の行う防疫活動

(1) 知事の指示により必要な防疫活動を行う。

(2) 市長は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下この項において「法」という。）」第17条に基づく健康診断を実施し、患者及び保菌者を早期発見することで感染症のまん延防止を図る。

(3) 市長は、感染症の発生状況、動向及び原因を明らかにするため法第15条に基づく調査を実施する。

(4) 津波浸水地域については被災後、速やかに状況に応じた防疫活動を行う。

(5) 知事から法31条に基づく生活用水の供給の制限又は禁止の措置が講じられた場合、使用者に対し生活用水の供給を行う。

《津波対策編》

第3章

- (6) 防疫薬品が不足したときは卸売業者等から調達するほか、県に対し供給の調整を要請する。
- (7) 厚生労働大臣が定める疾病のまん延予防上、緊急の必要があると認められる場合、知事の指示に基づき臨時の予防接種を行う。

2 住民及び自主防災組織の行う防疫活動

飲食物の衛生に注意して感染症及び食中毒の発生を防止する。

3 関係団体の行う防疫活動

飲食物に起因する感染症及び食中毒の発生防止について、県及び市から要請があった場合は、積極的に協力を行う。

第8節 市有施設及び設備等の対策

災害応急対策及び災害応急復旧対策の遂行上重要な市有施設・設備等の速やかな機能回復を図るための措置を示す。

1 公共施設等

(1) 河川及び海岸保全施設

ア 被害情報の収集、施設の点検、情報連絡

パトロール等により被害情報の収集、水門等管理施設の機能の点検等を行うとともに、関係機関に情報を連絡する。

イ 水門等の操作

津波の危険のある地域においては、必要に応じて水門等の閉鎖操作を行う。ただし、操作員の安全な避難に要する時間を確保した上で行う。

ウ 応急措置の実施、2次災害の防止

従前の防災機能が損なわれ2次災害のおそれのある施設について、水防活動等必要な応急措置を講ずる。

エ 資機材の確保、応急復旧工事の実施

施設の重要度を勘案のうえ、必要に応じ「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき建設業組合等に協力を求め、資機材を確保し、仮工事等の応急復旧工事を実施する。

オ 住民等への連絡

避難等が必要な場合は、速やかに当該地域の市民へ状況の連絡に努める。

(2) 港湾及び漁港施設等、被害状況の収集、施設の確認、情報連絡

ア 被害情報の収集、施設の点検、情報連絡

パトロール等により岸壁等港湾及び漁港施設の被害情報の収集、施設機能の点検を行うとともに、港湾及び漁港施設利用者に対し、被害状況の調査及び点検の実施を要請する。また、関係機関に情報を伝達する。

イ 水門等の操作

津波の危険のある地域においては、必要に応じて水門等の閉鎖操作を行う。ただし、操作員の安全な避難に要する時間を確保した上で行う。

ウ 応急措置の実施、2次災害の防止

危険箇所の立ち入り禁止措置や、水閘門等の機能欠損箇所における応急修理等の応急措置を講ずる。

エ 緊急輸送岸壁の確保、資機材の確保、応急復旧工事の実施

緊急輸送岸壁の早期確保を最優先し、必要に応じ「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき建設業組合等に協力を求め、資機材を確保し、応急復旧工事を実施する。

また、港湾及び漁港施設利用者に対し、港湾機能の障害となるもの等への早期対策を実施する。

(3) 工事中の公共施設、建築物、その他

津波の危険のある地域においては、工事を中止し、必要に応じて安全確保のための措置を講ず

《津波対策編》

第3章

る。ただし、操作員の安全な避難に要する時間を確保した上で行う。

(復旧・復興については、「共通対策編」第4章復旧・復興対策によるものとする。)